

令和元年度指定
地域との協働による高等学校教育改革推進事業
(プロフェッショナル型) 報告書
第2年次

生活文化の伝承と多世代交流
ー共生のまちづくりに貢献する人材の育成ー



令和3年3月
愛媛県立小松高等学校

本報告書は、文部科学省の委託事業として、愛媛県立小松高等学校が実施した令和2年度指定「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」（第2年次）の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、連載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

はじめに

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）の研究指定を受けて2年目を迎えました。コロナ禍における国の緊急事態宣言に伴い、教育活動に大きな制限を設けざるを得ませんでした。しかし、「できない理由を探すのではなく、できることから動く」姿を随所に見ることのできた1年間でもありました。1学期は校内での活動を先取りして実施、8月からの地域との交流のために力を蓄えました。2学期以降、1年生は昨年度に編成したカリキュラムに沿い、地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える学習を進め、2年生は分野ごとの課題解決を図る研究・実践を行いました。地元の魚を使った学校給食メニューの考案・提供や、はだか麦や椿を使った商品開発に向けて本格的にスタートを切り、パッケージの準備等販売への取組も進んできています。特に、愛媛県産マダイや伊予柑を食材として考案したメニューは、学校給食センターで3種類を採用していただき、小・中学校や幼稚園のメニューに加わりました。生徒たちが小学校や幼稚園を訪問して地元素材の魅力を伝え、食育を行うたび、児童・幼児たちが喜んで迎えてくれます。学校給食センター、小・中学校、幼稚園や栄養教諭も生徒たちを歓迎し、喜んで協力してくれる。こうしたサービスラーニングの継続によって、園児・児童・生徒たちに地域愛、郷土愛が育っていき、世代を超えて地域がつながっていくものと考えています。

さて、本事業は専門学科家庭科で受けている事業ですが、「地域」「協働」「改革」は本校全体で共有すべき課題であり、今後の教育の柱です。生徒に関わる全教職員が目的・目標を共有しておかないと、場当たりの活動に終始してしまうことになるでしょう。そこで、ロジックモデルのアクティビティを全教職員で共有し、各教科の努力目標・計画の中に地域協働の学習を組み入れるなど、校内の協働体制も動きつつあります。また、事業評価の一つとして行っている高校魅力化評価システムにより、生徒の成長のためには、教員の「何ができていて、何ができていないか」を振り返る必要性についても気付きを得ています。専門学科家庭科の生徒を育てる研究が、普通科の生徒を含め、チーム学校としての組織変革の原動力となり、新時代に対応した学校魅力化の推進力となっていくものと期待を寄せています。

また、今年度は、小松地区の地域づくりを考える有志の会が、多世代で一緒に考える「小松地区地域フォーラム」を企画し運営に乗り出しました。本校からも大勢の生徒が参加し、ともに地域づくりを考えています。「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有する」ために、学校がプラットフォームとしての機能を果たす機が熟しつつあります。本校家庭科は「ライフデザイン」と「ヒューマンサービス」の2コースを備えています。この懐の深さを生かし、様々な方面とつながりを広げつつあることは、本校にとって大きな財産です。一人では、学校だけでは、地域だけではできないことが、つながりによって可能になっていきます。これも本校を取り巻く多くの人々の御理解と御協力があつてのことです。最後になりましたが、本事業並びに本校教育活動に対して、物心両面にわたり御協力いただきました、企業や団体、愛媛県・西条市等の行政機関、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の皆様には深く感謝申し上げます。また、温かい目で本校を見守り、御協力・御指導を賜りましたコンソーシアム検討会議の皆様、御指導・御助言を賜りました、運営指導委員会、文部科学省、愛媛県教育委員会の皆様に対しまして厚くお礼を申し上げます。

令和3年3月

校長 森岡 淳二

目 次

巻頭言

目次

活動概略図

活動写真

I 研究概要	1
1 研究開発名	
2 研究開発の概要	
3 研究の目的と三つのテーマ	
4 研究組織の概要	
5 本年度の実施計画	
6 事業実施体制	
7 課題項目別実施期間	
8 学習成果と評価項目（ループリック）	
II 研究内容	8
II-I 地域課題の発見・解決方法の研究	
1 研究の概要	
2 研究の内容	
（1） 地域課題に関する学習	
（2） S D G s についての学習	
（3） エシカル甲子園 2020	
（4） 伝統産業研修	
（5） 県外研修	
II-II 伝統文化・地域特産品の研究	16
1 研究の概要	
2 研究の内容	
（1） 商品開発に向けて	
（2） 魚食文化の研究	
（3） 椿文化の研究	
（4） はだか麦の研究	
II-III 多世代交流の実施	34
1 研究の概要	
2 研究の内容	
（1） 「椿千年の森」清掃活動・椿の実収穫	
（2）～（5） まちかど家庭科室～ふらっと～①～④	
（6） シトラスリボンの制作と配布	
II-IV 研究成果の発表・発信	41
1 椿に関する成果発表	
2 魚食に関する成果発信	
3 令和2年度「えひめスパーコンソーシアム（オンライン）」による成果発信	
4 ホームページ掲載一覧	
III 研究の成果と今後の課題	50
1 研究の成果と評価	
2 次年度以降の課題及び改善点	
IV 運営指導委員会記録	56
V 関係資料	60
1 令和2年度教育課程表	
2 令和元年度実施報告概要	

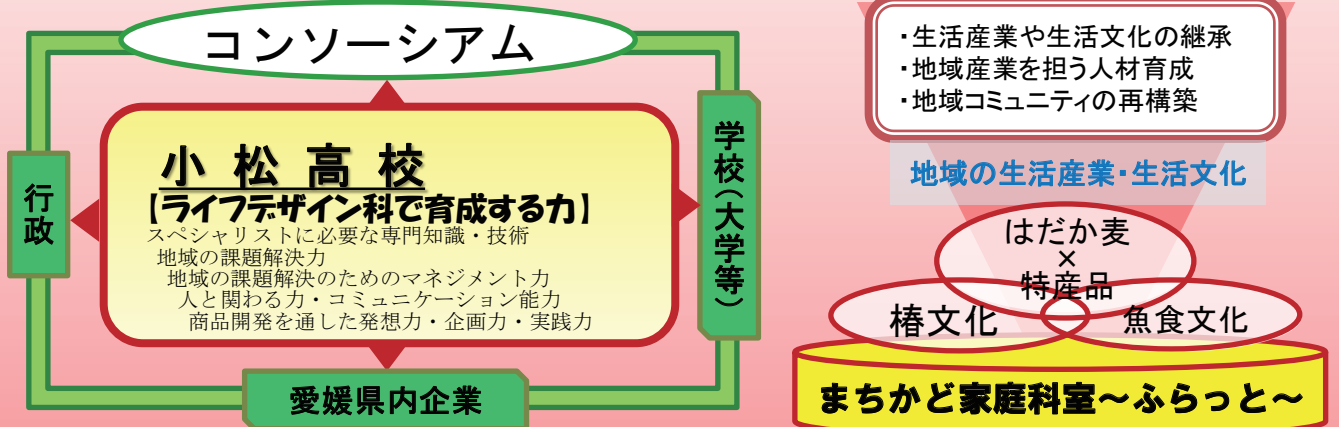


愛媛県立小松高等学校 ライフデザイン科



生活文化の伝承と多世代交流
共生のまちづくりに貢献する人材の育成

地域との協働による地域課題研究を通じた人材育成プログラム



地域に根差し、共生のまちづくりに貢献できる人材

新たな価値を創造し、
主体的に行動する力

3 年次

地域の生活産業・生活文化
を**広め、地域に貢献する**

- はだか麦・魚を使用したオリジナルレシピの提案と商品開発
- 椿油・椿花・椿実を使用した新たな特産品の提案と制作活動
- 地元産直市やアンテナショップでの販売活動
- HPやSNS等による情報発信で県内外への普及活動
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催による地域コミュニティの再構築

確かな知識と技術を持ち、他者と協働して
地域に貢献する人材

小松つばき会、愛媛大学、
市内漁協、西条市と協働

2 年次

地域の生活産業・生活文化
を**研究し、課題解決を図る**

- 椿・伝統的魚食文化・はだか麦 × 特産品の研究
- 食のコンクールへの挑戦やインターンシップの実施
- 産官学連携による商品開発・オリジナルレシピの開発
- 日本を代表する伝統工芸研修
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催による地域コミュニティの再構築

地域資源の産業化・商品
化へつなげる技術力、企
画力、実践力を持つ人材

1 年次

地域の生活産業・生活文化
を**知り、課題を考える**

- 地場産業見学（椿ハウス、魚市場、手すき和紙等）
- SDGsと地域課題について学習
- 地域人材を活用した実践的学習活動
- 異年齢者との交流による地域コミュニティ参加
- タブレットを活用した調べ学習や協働学習
- まちかど家庭科室～ふらっと～開催

学校設定科目「ライフデザイン」、
科目「課題研究」で実施
SNS等による発信

地域の伝統産業・伝統文化
に興味・関心を持ち、他者
と情報を共有して地域の魅
力を創出できる人材

魚食

活動写真



学校給食メニュー紹介&魚食普及



エプロンシアター



学校給食メニュー発表会



「鯛のトマトソース」



「鯛塩ラーメン」



「鯛と里芋のコロッケ」



「鯛のアクアパッツァ」



「なかよし包み」

椿



椿の実の収穫



椿の染色



タイルコースター



水引細工



マグネット



巾着



コサージュ

はだか麦



はだか麦講義



はったい粉クッキー



パン作り



はだか麦「ミネストローネ」



「はったいコロコロクッキー」



「ミニ食パン」

I 研究概要

1 研究開発名

令和元年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 プロフェッショナル型（第2年次）
「生活文化の伝承と多世代交流―共生のまちづくりに貢献する人材の育成―」

2 研究開発の概要

(1) 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究

(2) 学習指導方法の研究

1年次 地域の生活産業・生活文化を知り、課題を考える。

2年次 地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る。

3年次 地域の生活産業・生活文化を広め、多世代交流、共生のまちづくりに取り組み、地域に貢献する。

(3) 地域課題研究の評価方法の研究

(4) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

3 研究の目的と三つのテーマ

(1) 研究の目的

本校が位置する愛媛県西条市は、海と平野と山がそろった自然環境豊かな都市であり、四国有数の工業都市として、また、四国最大の経営耕地面積を誇る農業都市として発展してきた。しかしながら、近年地域経済の衰退による都市部への人口流出や少子高齢化が加速しており、地域コミュニティにも深刻な影響を及ぼしている。人口減少の克服、地域経済の発展、活力ある地域コミュニティの再構築などの課題が山積している。

そのような中、本校ライフデザイン科は、県立高校唯一の家庭に関する専門学科として、専門教科「家庭」を幅広く学び、将来地域社会に貢献できる生徒の育成を目指している。2年次からは、二つのコースに分かれ、ライフデザインコースでは、ライフステージにおける家族・家庭、衣・食・住などの生活課題を専門的に学習し、生活関連産業に従事できる能力を養うこと、ヒューマンサービスコースでは、高齢者の福祉と乳幼児の保育に関する専門的な知識と技術を習得し、少子・高齢社会の福祉ニーズを支える人材を育成することを目標としている。

平成27年度には、県教育委員会からの指定を受けて、「地域の担い手育成のための専門科目における指導法の研究」として、「地域のスペシャリストとして、他者と協働しながら地域に根差す生徒を育てる効果的な指導方法を整理・研究し、地域と共に育つ意識を持った生徒を育てる」という目標を掲げ、研究に取り組んだ。実施後も、家庭科専門科目だけにとどまらず、学校教育全般にわたって教育活動における実践を継続している。

本研究では、こうしたこれまでの研究を発展させ、少子高齢化や人口減少が進展する中、持続可能な社会の構築に向け、課題意識を持ち、生涯にわたって様々な人と協働しながら、地域課題の解決を目指して主体的に行動し、生活文化の継承、生活産業の振興や多世代交流、共生のまちづくりに貢献する地域人材の育成を目的とする。

地域人材に必要な力は以下のとおりと考える。

- 地域で活躍する人材として必要な専門的知識・技術
- 地域の課題発見力・課題解決力
- 地域の課題解決のためのマネジメント力
- 他者と協働し学びを深めるコミュニケーション能力
- 商品開発を通した発想力・企画力・実践力
- 地域課題研究の成果をまとめ、発表する表現力

そして、育成を目指している生徒は次のとおりである。

- 地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒
- 地域課題を踏まえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒
- 多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒

以上のような生徒を、コンソーシアム他と協働して取り組む地域課題研究を通して育成したい。そのため、本研究では、地域課題研究を「課題研究」だけでなく専門教科「家庭」の他の科目や「福祉」の各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムや学習指導法、地域課題研究の評価方法の研究、コンソーシアムとの連携の在り方について研究する。

(2) 取り組みたいテーマ

持続可能な社会の構築に向けた視点から、地域と協働しながら課題解決に取り組みたいテーマを次の3点に設定した。

ア 「椿の香りと文化」のまちづくりの活性化

本校が位置する西条市小松町は、小松藩一柳家一万石が幕末までこの地を治めていた。儒学者で伊予聖人といわれた近藤篤山を招いて藩校「養正館」を設置するなど、教育や文化を重視した地域である。近藤篤山が「椿」を好んでおり、町民は椿を育てることで師の教えを受け継いできた。前身である小松町立実用女学校は藩校「養正館」の跡地に建てられ、師の教えは校是となり現在に伝えられ、庭園には椿が植えられている。西条市では、「椿の香りと文化」をまちづくりの中心に据え、観光PRと椿普及、高齢者の生きがいづくりに努めたが、「椿」の栽培は一部の愛好家にとどまり、市内・県内へのPRも不十分であった。このような反省を踏まえ、従来の価値にとどまらず、地域資源の多角化を研究し、新たな価値を付加した地域の特産品を開発してブランド化すること、それを適切に情報発信し、地域の活性化につなげることが必要である。

イ 生活文化・生活産業の振興

西条市には豊かな自然を生かし、はだか麦、ほうれん草、絹かわなす、七草など優れた農産品が数多くある。水産業においては、盛んなり養殖のほか、ワタリガニ、シャコ、サワラ、エビ等の西条ブランドがある。しかし、全国的に見るとこれらの知名度は低い。地域に根付く魚食文化も失われつつあり、地域が誇る貴重な資源や食文化の価値は若い世代にうまく伝わらず、その継承も行われていない。

これらの生活産業や生活文化の振興のためには、地域産業や行政、地域の高校と連携した学びを基に、地域資源や伝統文化の価値を知り、新たなレシピや加工品を開発して普及することで、地域への誇りや愛着心を醸成し、使命感を持って全国に西条ブランドを広め、地域の魅力化・活性化に

仲間と共に寄与する人材を育てなければならない。

ウ 地域コミュニティの活性化

西条市において、高齢化率は平成27年度で30%を超え、高齢者のいる世帯は一般世帯の48.2%、そのうち、高齢者一人暮らし世帯及び高齢者夫婦のみの世帯が69.1%を占めている。地域における人間関係の希薄化による相互扶助機能の低下は、西条市においても懸念されており、互いに支え合う地域コミュニティの構築が求められている。地域に住む高校生として、子育て支援や高齢者の生きがいづくりに参画し、互いに学び合う「まちかど家庭科室～ふらっと～」を企画し、地域の小・中学校他と協働して、コミュニティの活性化を図る。実施してきたこれまでの交流に加え、生徒が企画から準備、運営までを主体で行う過程で、マネジメント力やコミュニケーション力を身に付け、人口減少や核家族化等により薄れつつある地域コミュニティの再構築に貢献できる人材を育成したい。また、生涯を見通した自己の生活について、将来の生活に向かって目標を立て、展望をもって生活することの重要性を認識させ、3年間の学びを経て地域の産業スペシャリストとして従事する自分の姿や、そのライフスタイルを実現するための生活設計力を育んでいきたい。

4 研究組織の概要

(1) コンソーシアムについて

ア コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名	
愛媛大学地域協働センター西条	センター長	羽藤 堅治
日本つばき協会支部 愛媛・小松つばき会	会長	佐伯 隆
株式会社 マルブン	社長	眞鍋 明
(株) D e c o	代表	處 淳子
西条市立小松小学校	校長	藤原 正三
西条市立小松中学校	校長	岡田 光
西条市小松総合支所	所長	玉井 宏治
西条市小松子育て交流センター	所長	古宅 成美
西条市小松公民館	館長	曾我部米治
愛媛県農林水産部漁政課	課長	橋田 直久
愛媛県教育委員会高校教育課	課長	島瀬 省吾
愛媛県立小松高等学校	校長	森岡 淳二

イ 活動日程・活動内容

令和2年7月13日に第1回コンソーシアム検討会議を行い、本事業の概要を説明し、今年度の事業内容を決定した。令和3年3月3日に第2回コンソーシアム検討会議を行い、本年度の研究内容・研究成果と今後の課題を報告した。

(2) カリキュラム開発等専門家について

元高等学校家庭科教員藤岡英子氏を会計年度任用職員として雇用した。

(3) 地域協働学習実施支援員について

株式会社D e c o代表處淳子氏を会計年度任用職員として雇用した。

(4) 運営指導委員会について

ア 運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
羽藤 堅治	愛媛大学地域協働センター西条・センター長	学校教育に専門的知識を有する者
藤田 昌子	愛媛大学教育学部・教授（愛媛県家庭科研究会）（会長）	学校教育に専門的知識を有する者
眞鍋 明	株式会社マルブン・社長	学識経験者
玉井 宏治	西条市小松総合支所・所長	関係行政機関の職員
曾我部米治	西条市小松公民館・館長	関係行政機関の職員
久保 浩治	愛媛県立西条農業高等学校・校長	学校教育に専門的知識を有する者

イ 活動日程・活動内容

令和2年7月13日に第1回運営指導委員会を行い、本事業の内容の説明に基づいて運営指導を受けた。令和3年3月3日に第2回運営指導委員会を行い、本年度の研究内容・研究成果と今後の課題を報告し、運営指導を受けた。

(5) 研究推進委員会

ア 校内推進体制の構築

本校の重点努力目標が「学びをつなぐ 思考力、問題発見・解決能力の育成」であり、その副題を「一伝統を継承し、地域と共に歩む」として、地域協働については、学校全体で取り組むものと意識を明確にした。カリキュラム・マネジメントを推進するためのPDCAサイクルを確立するために、校内においては、管理職、家庭科教員の他に、総合的な探究の時間担当教諭、進路担当教諭、教務担当教諭、生徒指導担当教諭、総務担当教諭、大学院派遣教諭が連携を図っている。

イ 運営指導委員会の構成

組 織	教師及び支援員	役割専門分野
	校 長	事業総括責任者
研究推進統括	教頭	運営指導委員会・コンソーシアム運営・記録・広報
経 理 担 当	事務長 専門員 主事	備品・需用費・旅費
研究推進委員長	家庭科主任	企画総括・研究推進
研究推進委員会	文部科学省事業主幹	研究推進
	再任用教育職員	事業推進アドバイザー・指導助言
	総合的な探究の時間担当教諭、大学院派遣教諭	探究活動推進リーダー
	進路課長、教務課長、生徒課長、総務厚生課長	委員
	地域協働学習実施支援員	地域協働学習実施・外部との連携調整・多世代交流実施・広報・運営・指導助言
	カリキュラム開発等専門家	カリキュラム開発・SDGs学習・地域理解学習・資料提供・指導助言
	家庭科教員	企画研究・記録・広報

5 本年度の実施計画

地域の生活産業・生活文化、多世代交流、共生のまちづくりを研究し、課題解決を図る。事業実施の対象学年は1・2年生である。

- (1) 「課題研究」「生活産業基礎」「フードデザイン」「家庭総合」〔SDG sに関する学習、地域理解学習、課題発見と課題解決学習〕（1年生）

取組内容	・調査・研究・実践の効果的な実施～課題研究ガイダンス～ ・地域の課題の発見と解決プランの立案 ・地域に根差す生活産業が直面する課題
実施時期	令和2年4月～令和3年3月
協力機関等	(株) De co代表 處 淳子

- (2) 「課題研究」「フードデザイン」「ライフデザイン」〔椿文化研究、魚食文化研究、はだか麦×特産品で加工品研究、地域協働による新たな価値を付加した特産品開発・普及〕（2年生）

取組内容	・調査・研究・実践の効果的な実施～課題研究ガイダンス～ ・地域の課題の発見と解決プランの立案 ・地域に根差す生活産業が直面する課題
実施時期	令和2年4月～令和3年3月
協力機関等	(株) De co代表 處 淳子、小松つばき会、西条市、地域の飲食店等

- (3) 外部講師による講義・演習〔生活文化(椿文化・魚食文化)、地域特産品〕（1・2年生）

取組内容	① 椿と小松～歴史を紐解く～ ② 瀬戸内の多様な魚食文化 ③ 魚を使った料理教室 ④ はだか麦の可能性 ⑤ はだか麦を使った料理教室
実施時期	令和2年4月～令和3年3月
協力機関等	① 小松つばき会 ② 愛媛大学地域協働センター西条 ②③ 愛媛県農林水産部漁政課 ④⑤ 東予地方局、西条市経営戦略部政策企画課

- (4) 校外研修

取組内容	① 地域の伝統産業視察（1年生） ② まちづくり・多世代交流先進地視察（1・2年生）
実施時期	令和2年6月・9月・12月
研修場所	① 紙産業技術センター他 ② 1年生 香川県小豆島 2年生 大分県別府市、島根県江津市

(5) 交流活動

取組内容	① まちかど家庭科室～ふらっと～の開催 ② 椿の庭園・椿ハウスの整備 ③ 他県における地域との協働活動実施校との情報交換 ④ 地域とのコラボによるイベントへの参加
実施時期	令和2年5月・7月・8月・9月・11月・12月 令和3年2月・3月
協力機関等	①② 西条市小松総合支所、西条市小松公民館、地域の小学校・中学校、小松つばき会 ③ 他県における地域との協働活動実施校 ④ 地域の飲食店等

これらの取組において、生徒がタブレットを活用して、学習成果の共有や蓄積ができるeポートフォリオを作成し、教員がその成果を評価する、パフォーマンス評価の在り方を研究する。

- (6) 運営指導委員会 [2回実施]
 (7) 研究推進委員会 [月1回開催]
 (8) 研究成果発表会 [発表会を通して成果を普及]
 (9) 学校ホームページ [学校ホームページに取組を掲載]
 (10) 次年度の準備 [次年度の事業対象学年1～3年生]

6 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
「課題研究」「生活産業基礎」「フードデザイン」「家庭総合」「ライフデザイン」	本校	校長 森岡 淳二
外部講師による講義・演習	本校	校長 森岡 淳二
校外研修	西条市、伊予市、香川県、大分県、島根県	校長 森岡 淳二
交流活動	西条市内、新居浜市、伊予市等	校長 森岡 淳二
地域との協働によるコンソーシアムの構築	本校、西条市(小松総合支所等)、愛媛大学地域協働センター西条、小松中学校、小松小学校、小松幼稚園、愛媛県教育委員会等	校長 森岡 淳二

7 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間 (契約日 ～ 令和3年3月31日)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「課題研究」「生活産業基礎」他			○	○		○	○	○	○	○	○	○
外部講師による講義・演習				○		○	○	○		○	○	
校外研修						○	○	○	○	○	○	○
交流活動				○	○	○						
地域との協働によるコンソーシアムの構築				○	○	○	○	○	○	○	○	○

8 学習成果と評価項目（ルーブリック）

学習成果 評価項目		S (4)	A (3)	B (2)	C (1)
1	課題を発見する力	感じた疑問を <u>いろいろな立場や方向から</u> 考えを深め、新たな疑問を持つことができる。	感じた疑問を探究の過程にのっとして、 <u>論理的に</u> 考えることができる。	感じた疑問に対して仮説を立て、 <u>解決する方法</u> を考えることができる。	日常生活で「なぜ？」を感じることができる。
2	資料収集力	必要な情報・データを <u>限られた時間の中で</u> 収集し、 <u>優先順位を付けながら整理</u> することができる。	必要な情報・データを <u>限られた時間の中で</u> 収集し、 <u>整理</u> することができる。	必要な情報・データを <u>収集、整理</u> することができる。	テーマに関係するデータを収集することができる。
3	発表する力	資料やデータを適切に使い、内容を <u>工夫しながら自分の言葉で</u> 分かりやすく発表することができる。	資料やデータを適切に使い、 <u>内容を自分の言葉で</u> 発表することができる。	資料やデータを使い、内容を <u>原稿を見ながら</u> （ではあるが） <u>発表</u> することができる。	資料を使い、内容を発表することができる。
4	段取力	<u>状況の変化に対応して、目的を達成するために</u> 、段取り良く物事を進めることができる。	<u>より良い結果を出すために</u> 、段取りよく物事を進めることができる。	より良い結果を出すために、どのような段取りで進めるべきなのかを <u>考える</u> ことができる。	物事や行動の結果を考える習慣を身に付けることができる。
5	協働する力	他者と関わりながら <u>積極的に</u> 取り組み、 <u>聞く、話すなど有意義なコミュニケーション</u> を図りながら協働することができる。	他者と関わりながら <u>主体的に</u> 取り組み、協働することができる。	他者と関わりながら <u>活動に</u> 取り組み、 <u>協働</u> することができる。	他者と関わりながら活動に <u>取り組み、協働</u> しようと努力することができる。

Ⅱ 研究内容

Ⅱ-Ⅰ 地域課題の発見・解決方法の研究

1 研究の概要

活動日	活動内容	科目	場所
6月8日	地域課題に関する学習	課題研究	小松高校
6月15日	SDGsについての学習	課題研究	小松高校
4～11月	エシカル甲子園2020	課外活動	小松高校
1月14日	伝統産業研修	課外活動	四国中央市・新居浜市
11月12、13日	県外研修①	課外活動	香川県
10月24、25日	県外研修②	課外活動	大分県

2 研究の内容

(1) 地域課題に関する学習

ア 目的

西条市や小松地域の歴史と文化について知り、地域について意識し自分たちにできることについて考えるきっかけとする。

イ 内容

小松町の歴史散策マップを用いて、小松町にある歴史的施設や四国八十八か所札所、石碑などの位置を確認した（写真1）。小松町以外の地域から通学している生徒が多いため、「通学路にあるので毎日見ているはずなのに気付かなかった」と話す生徒もあり、地域に目を向ける機会となった。



写真1 学習の様子

ウ 生徒の感想

- ・近藤篤山先生のお墓や邸宅が学校のすぐ近くにあることに驚きました。昔から地域の人に大切にされていると感じました。今度から通学しているときに、しっかり見てみようと思います。
- ・小松町にお遍路さんが多いのは、近くにたくさんの寺があるからなのだと思います。お遍路さんにも小松町の歴史や良いところを説明できるようになりたいです。

(2) SDGs についての学習

ア 目的

SDGs とは何か、なぜSDGs が必要なのかを理解し、地域課題の解決と持続可能な社会を目指していくための方策について考えるきっかけとする。

イ 内容

SDGs に関するプレゼンテーション教材とVTRを活用し、講義を行った（写真2）。今回の授業でSDGs を初めて知る生徒も多くおり、学びが多かったようだ。エコキャップ運動やレジ袋の有

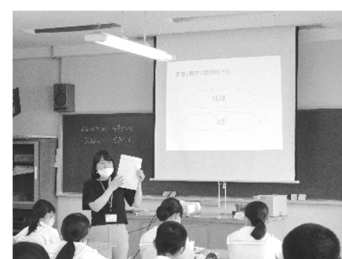


写真2 講義の様子

料化など生徒にとって身近な話題に触れ、私たちの消費行動が環境に大きな影響を与えることを学んだ。今後行う活動にも、SDG s の観点を取り入れていきたい。

ウ 生徒の感想

- ・今日の授業で初めてSDG s について知りました。海洋プラスチックで動物や魚が苦しんでいると知り、エコバッグなどを使うようにして、なるべくゴミを出さないようにしたいです。
- ・日本は豊かな国と言われているのに、SDG s の目標を全然達成できていないと知って、驚きました。自分にできることを見つけて取り組みたいです。

(3) エシカル甲子園 2020 (予選応募資料)

○取組の目的

本校ライフデザイン科は、高齢化・過疎化が進む西条市において、SDG s の観点から地域の課題を発見しつつ、『生活文化の伝承と多世代交流、共生のまちづくりに貢献する人材の育成』を目指す事業を進めている。事業の大きな柱が、椿文化・魚食文化・はだか麦などの地域の生活文化についての学習を通して、伝統を継承し、地元の特産品を使用した新しいレシピ・製品の開発などにも取り組む活動である。エシカル消費の観点を持ちながら生活文化を受け継ぎ発展させることによって、地域の活性化という課題解決を図ることを目的にこのテーマを設けた。

○具体的な取組内容

1 活動の場

ライフデザイン科の1・2年生『課題研究』、1年生『生活産業基礎』の授業、普通科も含めた家庭科の授業、課外活動などで実施する。

2 SDG s の学習

1年生の『課題研究』の授業において、SDG s について学習し、解決への方策を考える授業を実施している。椿文化・魚食文化・はだか麦といった地域の伝統・特産品を大切に、生活文化を伝承することで、地域の活性化を図る活動を進めていく。

3 地域の伝統や特産品に基づく生活文化の伝承

(1) 椿文化の伝承

西条市小松町には、江戸時代以来、椿を大切にする歴史・文化があり、市町村合併前には、椿の花を町花としていた。この文化を、小松つばき会などの地元の方々から学び、若い世代に引き継いでいく活動を実施している。

<活動内容>

- ① 小松つばき会の方による椿文化に関する講義
- ② 小松中央公園にある「椿千年の森」の清掃活動（環境保全活動）
- ③ 小松つばき会の方と一緒に椿の実を収穫→椿油の精製→販売（地産地消）
- ④ 椿の実の殻（廃棄していたもの）を活用したリースの制作→高齢者施設や保育園等へプレゼント（エコ活動）
- ⑤ 椿の花びらの活用（エコ活動、地産地消）
 - ・染め物
 - ・ジャムづくり

⑥ 商品開発

- ・かき氷(地産地消、伝承、商品開発)

西条市の名水を利用し、椿の花をイメージしたかき氷を地元のカフェとの協働により開発し、西条市のイベントであるかき氷コンテストに参加→かき氷のコンセプトのストーリー性が評価され総合優勝（昨年度の取組）

- ・ジャム（地産地消、商品開発）

今まで利用されていなかった花びらを利用し、ジャムづくりに挑戦

⑦ 水引細工の制作（伝統工芸品）

- ・椿の花の水引細工を制作→配布活動

(2) 魚食文化の伝承

西条市には、ハモ・サワラ・シャコ・ワタリガニなど豊富な水産資源があり、伝統的郷土料理もある。この文化を漁協の女性部の方などから学び、地産地消につながるよう新しいレシピ開発や商品開発などを目指す。

<活動内容>

- ① 漁協の方による魚食文化に関する講義
- ② 西条市の高校生魚を使った料理コンテスト（課題は特産品のハモ）に参加→最優秀賞受賞（昨年度の取組）
- ③ コロナ禍で余っている「鯛」の消費拡大を図る活動（食品ロス削減）
栄養教諭による学校給食についての講義→「鯛」を使ったメニュー考案→考案したメニューの発表会→メニュー提供に向けて栄養教諭との打合せ→メニュー提供（小学校での紹介・普及活動）
- ④ 幼稚園でのエプロンシアター（地産地消啓発）
- ⑤ 藻場づくり植林ボランティア（環境保全活動）

(3) はだか麦の伝承

愛媛県は、はだか麦の生産量全国一である。西条市は、その中で最も生産量が多い。また、はだか麦は、小麦と違いグルテンフリーで食物アレルギーの原因になりにくいなどの特徴がある。さらに、調味料のみその原料としても広く利用されている。しかし、収穫したまま消費しきれず残っているという現状もある。この特産品を使用し、新しいレシピや商品開発などを目指す。

<活動内容>

- ① 愛媛県東予地方局の農業育成室の講師の方によるはだか麦に関する講義
- ② 地元の中学生と一緒にピザを作る料理教室的な講座（みそ入りピザソースの開発）（昨年度の取組）（地産地消）
- ③ はだか麦クッキーの販売（昨年度の取組）（地産地消）
- ④ 地元の小学校のウォークラリー大会での炊き出し（はだか麦入りおにぎりとはだか麦みそを使用した豚汁をふるまう）（昨年度の取組）（地産地消）
- ⑤ はだか麦を使ったレシピ開発（地産地消）

4 コンテストへの参加（地産地消）

J Aときめきレシピコンテスト（課題は特産品の絹かわなす）に参加→最優秀賞受賞（昨年度の取組）

5 全国高等学校食物調理技術検定及び調理実習（食品ロス削減、ごみ削減）

食物調理技術検定に向けての練習や調理実習において、野菜の皮や茎、葉など食用可能な部分の活用等を考え、できる限り廃棄を少なくするようにする。

6 エコキャップ運動（エコ活動、リサイクル活動）

校内の全クラスにペットボトルキャップの回収箱を設置し、家庭クラブ員が回収→リサイクル業者へ→ユニセフを通して世界の子どもにワクチンが送られる

○取組のまとめと今後の展望

ライフデザイン科で従来実施してきた活動に加え、多くの地域人材の協力を得て、地域協働の形で活動を進めている。昨年度は、地域人材から知識を伝授してもらう活動が中心であったが、今年度はその知識を生かして、椿文化・魚食文化・はだか麦などの生活文化伝承のためにできることを、SDGs やエシカル消費の観点を含めて考えながら活動に取り組んでいるところである。様々なイベントへの参加や交流活動を計画していたが、コロナ禍で思うような活動ができなかった。このような時期だからこそ、もう一度身の回りを見渡し、地域の現状や環境問題についての学習や研究を深め、今必要なことや自分にできること等の豊かな発想を引き出したい。また、校内で取り組める商品開発に力を入れ、イベント等が安心して開催されるようになるまでに知恵を蓄積しておきたい。また、リモートでのイベントや交流活動など、ウィズコロナを意識しながらできる活動を考えていきたい。



(4) 伝統産業研修

ア 目的 地域との協働による高等学校教育改革推進事業の一環として、地域の伝統産業について学び、視野を広げることで地域貢献について考える一助とする。

イ 実施内容

(ア) 愛媛県産業技術研究所 紙産業技術センター

四国中央市の伝統産業である紙について、展示を通して学んだ。水引をはじめとした様々な製品の実物を見ながら紙産業についての歴史や、伝統産業についての知識を深めた（写真3）。また、水引を使ったストラップ作りを体験した。使用する水引はたくさんの種類の中から各自が好きな色のものを選び、制作に取り組んだ（写真4）。一人一人違うオリジナルのストラップが出来上がった（写真5）。



写真3 見学の様子



写真4 水引体験の様子

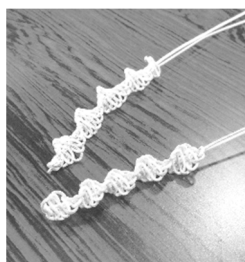


写真5 水引のストラップ

(イ) 広瀬歴史記念館、旧広瀬邸

館長による広瀬幸平氏の様々なエピソードについて聞き、記念館を見学した（写真6）。

旧広瀬邸では、当時の和風建築では見られない避雷針や、洋式便器、板ガラスを使用したりするなど、新しいものがふんだんに取り入れられている邸宅や、ゲストをもてなすための工夫がほどこされた庭園を見学した（写真7）。



写真6 広瀬歴史記念館見学の様子



写真7 旧広瀬邸見学の様子



ウ 生徒の感想

- ・四国中央市の紙産業の歴史について知り、自分も地元の産業や歴史について学びたいと思った。
- ・水引体験が楽しかった。ねじる力の入れ具合で結びの大きさが変わり、おもしろかった。
- ・水引で様々なものが作れることが分かった。地元の魅力を伝えるのに活用できないか考えてみたい。
- ・新居浜市が工業都市として発展する基になった別子銅山の歴史について学び、都市の発展にはその土地の産業が結びついていると感じた。
- ・旧広瀬邸では豪華な庭があったが、自分の贅沢のためではなく、訪れたお客様を歓迎するために設計されたのだと聞いて、広瀬幸平氏の心のあたたかさを感じた。
- ・古い建物だけどこれからも守り歴史を伝えてほしいと思った。

(5) 県外研修

ア 県外研修（香川県小豆島）

(ア) 目的

香川県の伝統産業や観光産業、地域文化を知るとともに、オリーブをはじめ、醤油やそうめんなどの地域特産品を生かした商品と販売の工夫を知り、今後の商品開発に向けての参考にする。

(イ) 実施内容

① 小豆島オリーブ園、道の駅小豆島オリーブ公園

小豆島オリーブ園では、まずスタッフの方からオリーブ園の広さや歴史についての話を聞いた（写真8）。生徒は日本のオリーブ栽培は小豆島から始まったことを知り、驚いている様子だった。その後、オリーブ園内を散策し、オリーブの実や葉を観察した（写真9）。園内には、オリーブオイルを搾るための碾き臼や圧搾機が展示されており（写真10）、実から油を搾る工程について学ぶことができた。



写真8 説明の様子



写真9 オリーブ園を散策



写真10 碾き臼

道の駅小豆島オリーブ公園では、オリーブオイルに醤油と自分で調合したスパイスを加えたハーブオイル作り体験を行った。オリーブオイルや醤油、スパイスの香りを確かめながら混ぜ合わせ（写真11）、オリジナルのハーブオイルを作製した。特産品を組み合わせた商品づくりの参考になった。

また、道の駅小豆島オリーブ公園内にはフォトスポットが多くあり、幅広い世代の観光客が訪れていた。訪れていた人の多くが写真や動画を撮影しており、SNSを通して地域の魅力発信を行う方策について学ぶことができた（写真12）。



写真11 ハーブオイル作り体験



写真12 フォトスポット

② マルキン醤油記念館

マルキン醤油記念館は（写真13）、諸味からしょうゆを搾り出す圧搾工場であった建物を記念館にしたもので、1996年に国の登録有形文化財に指定されている。館内に展示されている発酵に使用されていた道具（写真14）などを見学しながら、小豆島の醤油の歴史や麹菌の特徴、製造過程を学んだ。



写真 13 マルキン醤油記念館



写真 14 展示



③ なかぶ庵

小豆島の地域特産品であるそうめんを製造しているなかぶ庵を見学した（写真 15）。施設の方からそうめんの製造過程について実際に使用する機械を見学しながら説明を受けた。そうめんを細くするときに、麺が乾燥しないように油を塗っているという話を聞き、その油に椿油を利用できるのではないかと話す生徒もいた。



写真 15 見学の様子

その後、そうめんを細く伸ばす「箸分け」という作業を体験した（写真 16）。丁寧な手作業によってそうめんが作られていることや、伝統的な産業が伝承され続けていることを感じる事ができた。



写真 16 箸分け

(ウ) 生徒の感想

- ・オリーブオイルを使った食べ物や商品がたくさんありました。椿の油でもできるのではないかと思います。これから考えてみたいです。
- ・2日間の県外研修で、小豆島では特産品を使ったたくさんのお土産や商品が売られていることを知りました。若い人や子どもも買いたくなるような商品を私たちも作ってみたいと思いました。
- ・香川県や小豆島は、伝統的な産業が今も続いてきていることがすごいと思いました。観光客が集まるような場所やフォトスポットも多くて、うらやましいと感じました。西条市や小松町にもフォトスポットをつくるなど、SNSで発信したくなる工夫をしたらいいと思いました。

(エ) 成果と課題

生徒の中に「小豆島は想像していたよりも魅力があって、たくさんの人が集まっている」「小松町の魅力とは何だろう」と話す者もあり、小豆島と小松町を比較しながら学びを深めようとする姿が見られた。香川県の魅力や伝統産業を守っていかうとする工夫に触れることで、普段は考える機会の少なかった西条市小松町の魅力や伝統の継承について考えるきっかけとなった。今後の商品開発やホームページやSNS等での魅力発信に生かしていきたい。

イ 県外研修（大分県別府市）

(ア) 目的

観光地としても有名な大分県別府市を訪問し、伝統文化や地域特産品を生かした商品やサービス、観光地では、来場者を集める施設の工夫方法について学ぶ。

(イ) 実施内容

① 別府市竹細工伝統産業会館

別府竹細工は「伝統的工芸品」の指定を受け、市では竹資源の有効活用や伝統技術の保護・育成事業に取り組んでいる。別府市竹細工伝統産業会館では（写真17）、竹工芸を将来の職業として希望する受講生が指導を受けていた。展示室では、竹の種類や竹工芸の歴史、工芸品が展示されていた。体験教室では、加工した竹を編み、竹鈴を作成した（写真18）。大型見本や作業工程表などを使用して説明していただき、とても分かりやすかった。体験教室を開催する時の参考にしたい。



写真17 別府市竹細工伝統産業会館



写真18 竹鈴

② 第30回全国産業教育フェア大分大会視察

10月24日、別府ビーコンプラザで行われた産業教育フェアに参加した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、参集型開催とインターネット開催を融合した開催で、ライブ配信やオンラインでの協議が行われていた。展示ブースでは（写真19）、全国のSPH事業の活動内容を見ることができ、地域との交流の手法や題材の参考となった。また、中央ステージでは大分県の紹介を生徒実行委員が行っており、様々な被り物を被った実行委員の生徒たちが（写真20）、大分の魅力についてクイズを行っていた。参加者は、楽しみながら大分の魅力を知ることができ、伝えたい情報の発信方法についての工夫が見られた。参加生徒たちは、「魚の被り物は自分達でも作れそう」「魚食文化の伝承で使いたい」などの意見が出てきた。



写真19 展示ブース

(ウ) 生徒の感想

- ・産業教育フェアでは全国の高校が地域活性化のためにどんなことに取り組んでいるかを発表していました。私が印象に残ったのは、小松高校でも行っているように、被服製作や料理コンテスト、幼児のおもちゃなどを作っている学校です。アイデアが豊富でとても目をひかれました。この知識を生かして自分たちの活動にも取り入れてみたいです。
- ・産業教育フェアの発表では、聞く人が楽しめるようにクイズなどもとり入れながら工夫して発表していました。聞いていてとてもおもしろかったので私たちも聞く人が楽しめるように工夫したらいいなと思いました。



写真20 実行委員の生徒

Ⅱ - Ⅱ 伝統文化・地域特産品の研究

1 研究の概要

項目	活動内容	活動日	科目	場所
商品開発	マーケティングの基礎	10月1日	課題研究	小松高校
	パッケージデザイン	1月～3月	課題研究	小松高校
	ロゴマークデザイン	11月10日	数学A	小松高校
魚食文化	お魚料理講習会	10月13日	家庭総合	小松高校
	シーフード料理コンテスト	6月～8月	課題研究	小松高校
	学校給食メニュー	7月～11月	フードデザイン	小松高校他
	エプロンシアター	9月～11月	発達と保育	小松高校
	商品開発	9月～3月	課題研究	小松高校
椿文化	椿の水引細工	9月～3月	課題研究	小松高校
	椿の消しゴム判子	6月～3月	課題研究	小松高校他
	エコバッグデザイン	9月～3月	ライフデザイン	小松高校他
	商品開発	9月～3月	課題研究	小松高校
はだか麦	はだか麦に関する講義	9月28日	課題研究	小松高校
	はだか麦を使ったお菓子講義	11月12日	課題研究	小松高校
	パン作り	1月～2月	フードデザイン	小松高校
	商品開発	9月～3月	課題研究	小松高校

2 研究の内容

(1) 商品開発に向けて

ア 講義「商品開発に向けてーマーケティングの基礎ー」(写真 21)

(ア) 講師 株式会社マルブン 代表取締役 眞鍋 明 氏

(イ) 目的

西条市の地域資源である魚、椿、はだか麦の価値を知り、新たなレシピや加工品などの商品を開発し、普及させたい。また、全国に西条ブランドを広め、地域の魅力化・活性化につなげたい。

(ウ) 講義内容

- ・商品開発をする時に重要なこと
- ・開発を進める時に必要な三つの要素
- ・生徒からの主な質問「商品開発で一番大切なこと、優先していることは何か？」
「インスタ映えする料理の盛り付け方の工夫などがあるか？」

(エ) 生徒の感想

- ・たくさん参考になる話が聞けてよかったです。一番はお客様の声を聞くことだと思いました。商品を売るためには、具体的なターゲットを決めることも重要だと分かりました。商品開発には小松町や愛媛のことをもっと知ること、売れる、人気のある商品が作れるのだと思いました。



写真 21 講義の様子

た。

- ・お客様を第一に考えて、どうしたら売れるか、どうしたら喜んでもらえるかをすごく考えていて、だからこそおいしい料理が提供できているのだと思いました。どの世代をターゲットにするか、どんな価格で売のかなど、商品を販売する上で大切なことを学びました。これから私たちも商品開発に向けていろいろなことを考えないといけないので、今日の講義のことを生かして頑張りたいと思いました。

イ 講義「商品開発に向けて一売れる商品デザインの作り方」(写真 22)

(ア) 講師 cuddle 長尾 愛里 氏

(イ) 目的

椿やはだか麦の加工品の販売に向けて、商品として売り出すためのパッケージは大切な要素である。販売場所や商品に合わせたパッケージデザインを学びたい。

(ウ) 講義内容

- ・商品開発の流れ
- ・商品の価格と量、デザインのポイント
- ・西条市の販売店と愛媛アンテナショップの顧客層
- ・食品表示における法律

(エ) 生徒の感想

- ・重要なことは、①デザイン（見た目）、②量、③価格の三つで、ターゲットを作ることも大事だということを学びました。同じ西条市内でも、周ちゃん広場やハイウェイオアシスでもターゲットやデザイン、量や価格が全て違うことを知りました。これから商品開発では、売る場所などを意識して考えていきたいと思いました。
- ・私は絵を描くことが好きなので、デザインや商品の開発についての授業はすごく楽しくお話が聞けました。デザインや量、価格について全く知識がないので、もっと商品開発について学習して、どんどん新しい知識を身に付けたいです。そして、もっといい商品、パッケージデザインを考えることができるといいなと思います。商品を選ぶときは、値段だけでなく、デザインも見えて購入しようと思いました。



写真 22 講義の様子

ウ 講義「ロゴマークデザイン ―図形の性質を用いて―」

(ア) 目的

数学Aの「図形の性質」で、平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにすることを目標としている。

四角形、三角形、円の性質の既習事項の復習を基に、線分の垂直二等分線、角の二等分線や三角形の外接円の中心（外心）、内接円の中心（内心）の再確認を行い、円周角の性質や円に内接する四角形の性質など、作図の学習も含めて、今まで直感的に捉えていた図形の概念について理論的に理解させる。

ロゴマークデザインについて、四角形、三角形、円などの基本的な図形から成り立っているものを参考にして、自分たちでオリジナルのロゴマークを考案させることを目的とした。

(イ) 講義内容

まず、図形の性質についての数学の授業を行い（写真23）、続いて、ロゴマークについての講義を行った（写真24）。

東京オリンピックのロゴマークが市松模様であることは知られているが、それは、3種類の長方形を円の中に規則的に散りばめてデザインされている。また、東京オリンピック・パラリンピックどちらのロゴマークも同じ図形の要素からできており、その配置の違いで異なるロゴマークができていることに着目させる。

西条市、大学、企業などのロゴマークで基本的な図形から成り立っているものを示し、班別でテーマを決め、オリジナルデザインのロゴマークを考案させた。まず、班員全員がそれぞれにテーマに沿ったロゴマークを考案し、その中で代表作品を選出し、全体で発表した。

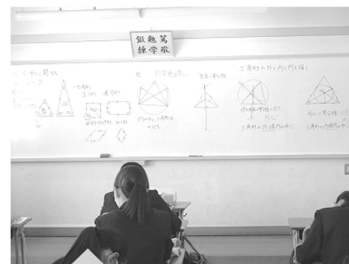


写真23 授業の様子

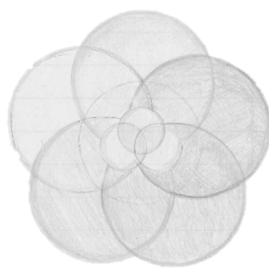


写真24 講義の様子

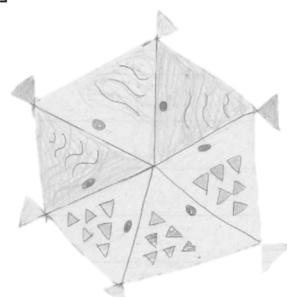
(ウ) 生徒の考案したロゴマーク



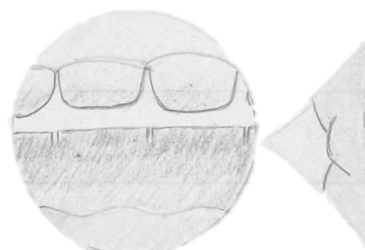
テーマ「橋」



テーマ「カフェ」



テーマ「さかな」



ア 魚食文化の研究

西条市で水揚げされる海産物や普段よく食する魚について、旬の時期や養分などを調べ、魚食普及のための研究に生かすため。

① テーマ設定

② 調べた内容をワークプリントに記入 (図 1)

③ プレゼンテーションソフトを活用し、スライドにまとめる (図2)。

[illegible]

図1 ワークプリント

「鯛」に含まれる栄養素は？

タンパク質・ビタミンB1、B2・DHA・EPAなどがある。

「鯛」のおすすめの食べ方は？

和・洋・中間わず、美味しく食べられるが、その中でも、煮たり、蒸したりする調理法は、栄養素の損失がなくてすむ。

魚の王様と言われているよ！

「鯛」の選び方

旬は3～5月、目が澄んでいて、目の上あたりウロコが、青く光っているものが新鮮な証

「鯛」料理

・鯛のお刺身

・鯛めし

・鯛のアクアパッツァ

・宇和島鯛めし

桜鯛

桜鯛は、3月から6月の桜の時期が旬。お祝い事やめでたい時などによく食べられる。体調15～20cmの小ぶりの鯛。天然物は1kgあたり5000円前後で売られている。美しい桜色で、桜の花びらのような斑点が特徴的。色が違うだけで真鯛。

同じ名前前の「サクラダイ」は全く違う種類でハタという類（上図）

- タンパク質
- ビタミンB1、B2
- タウリン
- ナイアシン
- カリウム

...などが含まれる。

【参考】鯛の旬は春から初夏にかけて。この時期は新鮮で、肉も柔らかいから、刺身や焼くなどの調理法がおすすめです。特に天然物の「桜鯛」は、美しい桜色や斑点が特徴的。色が違うだけで真鯛と区別がつかない場合もあるので、購入時には注意が必要です。

- 疲労回復
- コレステロール値を下げる
- 肝臓病の予防
- 冷え性予防
- 血行を良くする

アジの栄養素

アジには、様々な栄養素がバランス良く含まれているのが特徴

- ・脂質が少なめでたんぱく質が豊富
- ・必須アミノ酸をバランス良く含んでいる
- ・グルタミン酸やタウリンが豊富であるため特有のうまみがある

〈アジに含まれる成分〉

カルシウム
ビタミンB1
ビタミンB2
ナイアシンなど

→ ビタミン・ミネラル類を多く含む

〈アジの健康効果〉

- 生活習慣病の予防・改善効果
- 骨粗しょう症を予防する効果
- 記憶力や学習力を高める効果
- 視機能を改善する効果
- アレルギー症状を緩和する効果

鯖について

鯖は、スズキ目、サバ科に属する海水魚の一種

食べ方

・刺身・焼く・煮る・蒸す・揚げ など

栄養素

タンパク質、ビタミンB2、ビタミンB6、ビタミンD など

ミネラル類
カリウム、リン、亜鉛が多い

健康効果

- ・免疫カアップ・疲労回復・高血圧の予防
- ・ガン予防・コレステロールの予防 など

鯖を使った料理

鯖の煮付け

鯖は一年を通して美味しく食べられる魚

図2 作成した魚食スライド

イ 魚料理講習会

- (ア) 講師 西条市河原津漁協 漁業女性部 川又 由美恵 氏
西条市壬生川漁協 稲井 藤美 氏

(イ) 目的

西条市で水揚げされる魚について知り、魚の調理について基本的な知識と技術を身に付ける。

(ウ) 内容

最初に西条市近海で水揚げされる魚の種類や、近年、海洋環境の変動の影響を受けて漁獲量が減ってきていることなどの話を聞いた。海の資源を大切にすることはSDGsの観点からも重要であり、大変勉強になった。その後、アジの三枚おろしに全員が挑戦した(写真 25)。生まれて初めて魚をさばいた生徒も多く、貴重な経験となった。ぎこちない様子の生徒も徐々に慣れ、「もっと魚をさばいてみたい」と意欲を見せていた。今回は、三枚おろしにしたアジを揚げて南蛮漬けにした(写真 26)。実習中に「アジフライにしてもおいしそう」「煮付けも作ってみたい」と話す生徒もあり、今後、更に魚の調理実習を行うことで魚の調理技術向上を目指していきたい。また、今回の経験を生かして、魚に合った料理やレシピを考案していきたい。



写真 25 実習の様子



写真 26 アジを揚げる様子

(エ) 生徒の感想

- ・初めて魚をさばきました。三枚におろすのがとても難しくて、骨に身がたくさんついてしまいました。もっと練習してうまくなりたいです。
- ・今日はアジの南蛮漬けを作りました。これから、いろいろな魚料理に挑戦したいと思いました。次は煮付けを作ってみたいです。

ウ シーフード料理コンクールへの挑戦

(ア) 目的

西条市の水産業において、サワラ、ワタリガニなどの西条ブランドがある。新たなレシピや加工品を開発、普及させるため、オリジナル料理を考え、第21回シーフード料理コンクール(主催:全国漁業協同組合連合会)へ挑戦し、入賞を目指した。

(イ) 活動内容

① これまでの講義内容や海産物調査の共有

昨年度からの講義内容を確認し、魚食について調べた内容を皆で共有した。

② 使用する食材の検討(写真 27)

海産物や農産物の収穫一覧表などを参考にし、使用する食材を検討した。

③ オリジナルレシピの考案

レシピを各自で検討し、材料と分量、作り方をまとめた。



写真 27 食材の検討

④ 調理と試食

各自で調理し、試食・改善を繰り返し、16点を応募した（表1）。

表1 応募料理一覧

No.	料理名
1	鯛とりのりの和風茶漬け
2	鱈のホイル焼き
3	鯛の梅みそバーガー（写真28）
4	みんなで食べ鯛キッシュ（写真29）
5	ギョ！ギョ！ぎょうざ（写真30）
6	なかよし包み（写真31）
7	さわらのキッシュ
8	鯛の大葉ライスバーガー
9	鱈とキャベツのうま〜いパスタ！ （写真32）
10	鮭のホワイトソースオムライス （写真33）
11	海鮮具だくさん八宝菜
12	鯛のアクアパッツァ（写真34）
13	鮭と玉ねぎのチーズ焼き
14	さばの竜田揚げあんかけ
15	残りご飯で簡単パエリア（写真35）
16	鯛のしょうろんぼう



写真28 鯛の梅みそバーガー



写真29 みんなで食べ鯛キッシュ



写真30 ギョ！ギョ！ぎょうざ



写真31 なかよし包み



写真32 鱈とキャベツの
うま〜いパスタ！



写真33 鮭のホワイトソース
オムライス



写真34 鯛のアクアパッツァ



写真35 残りご飯で簡単
パエリア

入選することはできなかったが、西条市の海産物を美味しく調理し、オリジナルのレシピを考えることができた。

エ 学校給食メニューの開発

(ア) 目的

魚食文化の普及を促進するために有効な方法として注目したのが、学校給食である。子どもたちに魚を使った学校給食メニューを開発し、魚食普及を推進させたい。

(イ) 活動内容

① 学校給食の献立調査

小学校や中学校ではどのような学校給食の献立が提供されているかを、タブレットを活用して各自で調査した。西条市内だけでなく、県外の学校給食も調べ、まとめた（図3）。主菜、汁物、副菜には、旬の食材を使い、栄養バランスの良い献立になっていると気付いた。

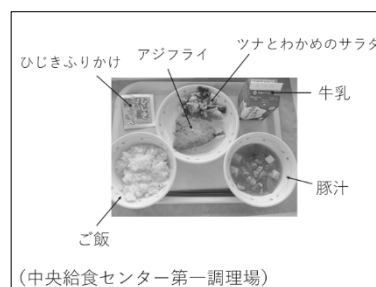
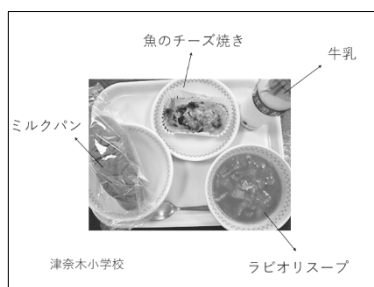
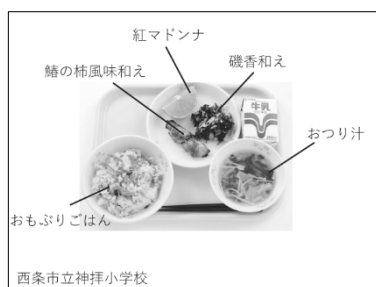


図3 学校給食調査

② 講義 「地元素材を生かした学校給食」(写真 36)

- ・講師 野菜ソムリエ上級プロ 年森 恭子 氏
西条市立西条小学校 栄養教諭 武方 美由紀 氏

- ・講義内容
 - ・コンクールと食べること
 - ・給食を知ろう
 - ・地産地消・旬産旬消とは
 - ・地元愛媛産品の今
 - ・メニュー作りの要点 ～給食献立での決まり事～
 - ・グループワーク (写真 37)

愛媛県産の鯛と地元素材を使った献立を考えよう！(図4)



写真 36 講義の様子



写真 37 グループワークの様子

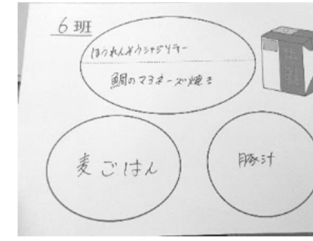
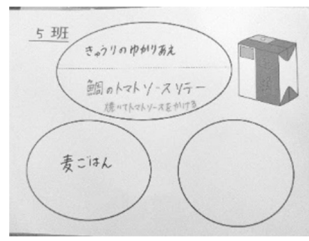
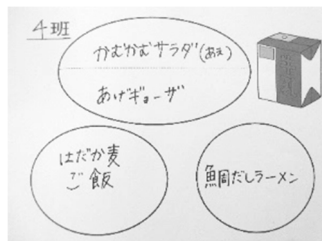
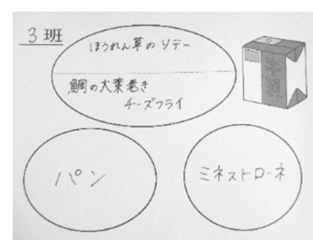
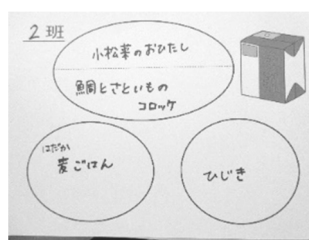
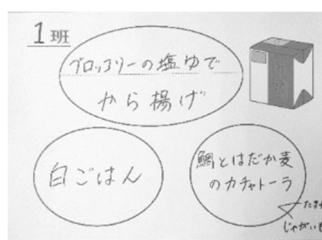


図4 考案した学校給食の献立

- ・生徒の感想
 - ・みんなで給食を考えるのがとても楽しかったです。栄養のことや安全のこと、費用のことなどいろいろなことを考えながら給食を作っていくのは大変なことだと思います。毎日、食べ物が食べられることに感謝し、今後の研究に生かしていきたいと思います。

・講師の先生のお話を聞いて、給食を作るには、衛生管理や価格、彩りなどたくさんの決まりごとがあるということを知りました。その中で、毎日決まった時間にあんなにたくさんの量を作られていて、考える人も作る人も本当にすごいなと思いました。他の班のメニューを聞いて、いろいろ工夫して考えていたし、おいしそうなのばかりでした。実際に作ってみるのが楽しみにになりました。

③ 学校給食メニューの試作

グループワークにより考案したメニューから、愛媛県産の鯛を使った料理の試作を夏季休業中の課題として実施した。ワークプリントに記入後(図5)、家庭で調理し、写真を撮って記録した。

図5 学校給食試作用 ワークプリント

④ メニューのまとめと発表会

鯛を使った料理の試作メニューを画用紙にまとめた(図6)。

図6 考案した学校給食のメニュー

その後、発表会を実施した（写真 38）。

発表会では、相互評価し、評価用紙に記入し（図 7）、この中から推薦する料理を選んだ。



写真 38 発表会の様子

2の4 学校給食発表会 評価表		学校給食で採用してもらうために！					推薦します！ 2名を選びま しょう！
氏名	内 容 (メモ)	評 価					
		内容の充実	作品の完成度	声の大きさ	声のスピード	総 合	
1		1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	
2		1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	
3		1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	
4		1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	
5		1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	
6		1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	
7		1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	1・2・3・4	

図7 評価用紙

生徒の感想

- ・ みんなの発表を聞いて、自分と同じ料理でも使っている材料が違っていて、新たな発見をすることが多かったです。また、子どもたちが喜ぶように工夫したり、短時間でできる料理もあったりして、食べてみたいと思いました。
- ・ 自分も発表をしたけれど、給食にするならどうするかということを深いところまで考えられていなかったの、それを考えられている人はすごいと感心しました。私たちが考えたメニューが本当に給食として食べられるといいなと思いました。
- ・ 学校給食を作っている中で、栄養士さんは、子どものために栄養や健康を考えながら作っていてすごいと思いました。自宅での試作では、班で決めたメニューを自分なりにアレンジして作りました。しっかり火が通っているか心配で不安もあったけれど、おいしくできたので良かったです。みんなの発表を聞いて、自分も作ってみたいと思いました。
- ・ 作るのは簡単だけれど、栄養面や彩り、量などを考えなければならぬのが、給食の大切なところだと思いました。みんなの意見やアイデアを共有できて良かったです。

⑤ 小学校と幼稚園での学校給食提供と普及活動

推薦されたメニューを栄養教諭の方に調理が可能であるか相談した。そして、小学校と幼稚園の給食センターに協力していただき、3品を実際に提供することができた。当日は、メニュー考案のアピールと魚食普及も兼ねて、「まちかど家庭科室～ふらっと～ ②～④」として実施した（p.37～参照）。

令和2年11月6日（金） 西条小学校 「鯛塩ラーメン」

令和2年11月11日（水） 小松小学校 「鯛のトマトソース」

令和2年11月16日（月） 小松幼稚園 「鯛と里芋のコロッケ」

オ 魚をテーマにしたエプロンシアターの製作

(ア) 目的

幼児が魚に親しむきっかけとなるよう、魚を使ったエプロンシアターを製作する。

(イ) 活動内容

① 題材の選定

魚が出てくるお話や手遊び歌を調査し、話し合い、題材を「にじいろのさかな」に決めた。

② エプロンシアターの製作 (写真 39)

- ・キャラクターの製作
- ・シナリオの編集



写真 39 エプロンシアターの製作

③ 小松幼稚園で園児に向けた実演

小松幼稚園でエプロンシアターの発表を行った (写真 40)。

園児からは「もう終わり？もっと聞きたい」という声を聞くことができた。内容が端的で短かったため、今後は、エプロンシアターのよさを生かした仕掛けを工夫していきたい。また、食育につながる題材の手遊び歌なども手掛けたい。



写真 40 小松幼稚園での発表

参考：マーカス・フィスター，“にじいろのさかな”谷川俊太郎訳，講談社，1995，24p

(3) 椿文化の研究

ア 椿の水引細工

(ア) 講師 マルシヨウ株式会社 篠原 啓子 氏

(イ) 目的

水引細工の基本を学び、地域の方との交流に活用できる椿小物を考案するため。

(ウ) 内容

水引細工の様々な作品を見せていただき、マカロン風のストラップや梅結びの椿、立体的なコサージュなど、水引で様々な表現ができることが分かった。実習では、まず「あわじ結び」という基本の結び方を教わり、その後、応用として梅結びの結び方を教わった (写真 41)。梅結びの中心部分に、黄色の水引でおしべを表すことで椿らしい形となった (写真 42)。



写真 41 水引の制作

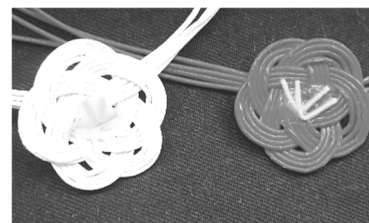


写真 42 水引の椿

思ったように水引を動かすことが難しく、何度もやり直しながら、少しずつコツを掴むことができた。赤い椿だけでなく、小松らしく白い水引を使用した篤山椿も制作した。生徒たちの中には水引細工に興味を持ち、水引を購入して家庭で制作している生徒も見られた。

イ 椿の消しゴム判子

(7) 目的

椿文化を広めるために、幅広い年代の人が喜んで活用してくれる有効な方法はないかと考えた。消しゴム判子は、テレビ番組でも取り上げられ、注目されており、椿の花を手軽に表現できる工作として実施した。

(イ) 活動内容

① 椿の消しゴム判子の作り方

消しゴム判子の作り方を、タブレットを利用して調べ、手順を作成した(図8)。小学生や高齢者まで、誰でも作れるよう写真を取り入れ、分かりやすく表現した。

② 消しゴム判子のデザイン考案

消しゴム判子のデザインや活用方法を考え、ワークプリントに記入した(図9)。

消しゴムハンコのデザインを考えよう。R2: 4、15
() 番 氏名 ()

1. 消しゴムハンコの作り方やポイントを調べよう。

2. 椿のハンコのデザイン案を考えてみよう。

3. 活用する方法について考えてみよう。

図9 ワークプリント

③ 制作

作り方を見ながら、椿の判子を制作した(写真43)。制作のポイントや難しいところを把握することができた。

④ 椿の消しゴム判子講習会の実施

椿の消しゴム判子(写真44)を地域の方にも広めたいと思い、「まちかど家庭科室～ふらっと～ ①」として小松中学校にて講習会を実施した(p36 参照)。

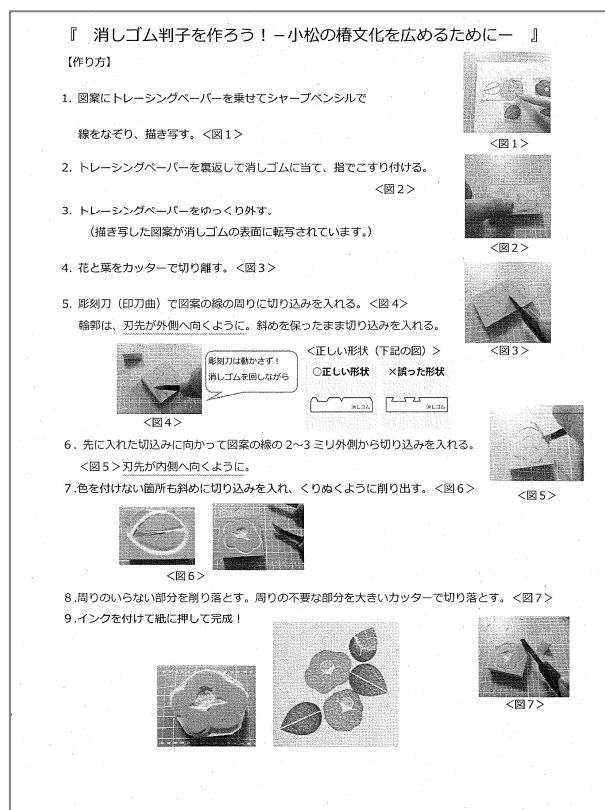


図8 手順

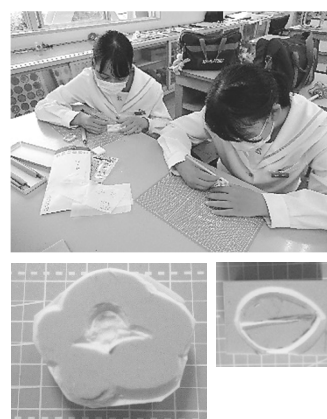


写真43 椿の判子の制作



写真44 椿の判子

ウ エコバッグデザイン

(7) 概要

小松町内のクリーニング店「ヨシザネクリーニング」から、クリーニングバッグを再利用できるエコバッグに変更するため、バッグのデザインの依頼を受けた。1年生の課題研究や美術選択生を中心にバッグのデザインに取り掛かっている。

(イ) 目的

地域のエコバッグデザイン考案を通して、地域に貢献する意欲や達成感を育むとともに、地域のよさを知り、表現する実践力を身に付ける。

(ウ) 内容

① 講義「デザインの考案」(図10)

美術Ⅰ(選択生13名)で、企業ロゴのデザインが表す意味について講義を受けた。その後、それぞれ、クリーニング店に抱くイメージを基に、ロゴを考案し、以下のロゴが完成した。



図10 クリーニングバッグロゴ一覧

② ロゴのクラス投票

考案したクラス投票で上位3作品に絞る。

③ クリーニング店との打合せ(写真45)

投票数上位の作品と、紙見本を持参し(写真46)クリーニング店を訪問した。

打合せを通して以下の意見が出てきた。

- ・小松高校との協働が分かるようなデザインを入れてほしい。
- ・かばんの形はポケットがある方がスタンプカードなどを入れられてよい。
- ・よいデザインを複数組み合わせてもおもしろい。

また、打合せの中で、クリーニング溶剤は環境に配慮した「EMクリーニング」を取り入れられていること知った。生徒たちから「デザインに環境への配慮を表すデザインを追加し改良したい」との意見が出てきた。



写真 45 クリーニング店への訪問



写真 46 紙見本を持参



エ 椿の染色

(ア) 目的

椿文化を伝承するために、椿を使用した商品開発を行う。

(イ) 活動内容

① 椿の採取

校庭に咲いている椿を採取し（写真 47）、花卉と花びらを分類した（写真 48）。



写真 47 椿の採取



写真 48 花びらの採取

② 準備物

- ・試料 布（絹） 糸（絹・綿・毛）
- ・クエン酸
- ・重曹

③ 加熱による染色（写真 49）

【方法】

- 1：鍋に水と花びらを入れ加熱する。
- 2：クエン酸を加え発色させる。
- 3：布を入れ加熱を続ける。
- 4：重曹を入れた水ですすぎ、色止めする。



写真 49 加熱による染色

④ 非加熱による染色（写真 50）

【方法】

- 1：花びらにクエン酸と水を加えよく揉みこむ。
- 2：色が出てきたら、試料を加え揉み、10 分ほど漬けておく。
- 3：重曹を入れた水ですすぎ、色止めする。



写真 50 非加熱による染色

⑤ 葉や枝を使用した染色（写真 51）

「③ 加熱による染色」と同じ方法で染色を行う。



写真 51 葉や枝を使用した染色

⑥ 結果（写真 52）

- ・加熱による花びらの染色が一番よく染まった。
- ・非加熱の場合は花びらの量が多ければ鮮やかに染まった。
- ・葉や枝を使用した物は、アイボリーに染まった。

⑦ 考察

花びら染めは、時間とともに、鮮やかさが失われ退色が見られた。葉や枝で染色した物はもともと薄い色だったこともあり、退色しにくいことが分かった。また、非加熱の染色は、花びらが多く必要であるという点では、効率は悪いが、加熱がいらないため簡単で子ども向けのイベントなどでは活用できそうである。



写真 52 加熱による染色

(4) はだか麦の研究

ア はだか麦に関する講義

- (ア) 講師 東予地方局 産業経済部 産業振興課
地域農業育成室 山口 耕司 氏

- (イ) 目的 西条市が全国一の生産量を誇るはだか麦について
教えていただくことで、地域の特産物であるはだか
麦についての知識を身に付け、関心を持たせる。

- (ウ) 内容 (写真 53)

- ・はだか麦の歴史について
- ・はだか麦の生産量の推移について
- ・はだか麦の種類や成分について
- ・はだか麦の加工品について

- (エ) 生徒の感想

- ・西条市は、はだか麦の生産量が全国一だということを初めて知った。
- ・はだか麦の種類を知ることができた。
- ・実物を見たり触ったりして、はだか麦と小麦の違いが分かった。
- ・はだか麦にはたくさんの加工品があるので、私も何か考えてみたいと思った。
- ・生産量に見あうほど消費されていないと知り、活用する方法があればいいと思った。

イ はだか麦を使ったお菓子講義

- (ア) 講師 吉田 早苗氏

- (イ) 目的

商品開発に向けて、はだか麦を使ったお菓子の作り方を学ぶ。

- (ウ) 内容

- ① はったい粉とは何か

使用するはったい粉とは何かの解説を聞いた。はったい粉とは、はだか麦を炒って粉砕したもので、香ばしい香りが特徴である。別名、麦こがしともいう。はだか麦は、徳川家康の好物でもあった。

- ② 「はったいコロコロッキー」の作り方

クッキーの作り方の説明をしていただき、調理のポイントを学んだ (写真 54)。

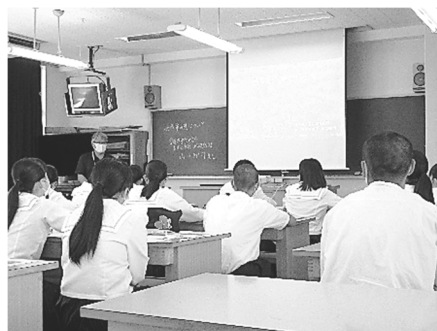


写真 53 講義の様子



写真 54 作り方の説明

③ 調理

各班に分かれて調理をした。サクサクに仕上げるため、マーガリンの泡立て方に注意しながら作業を進めた（写真55）。

④ 試食とラッピング

完成したクッキーを試食した。ほろほろサクサクに仕上がった（写真56）。各自でラッピングもした（写真57）。

(エ) 生徒の感想

- ・生地を丸める時、きれいに丸めるのが難しかったです。はったい粉の〇×クイズでは、今まで知らなかったことを聞いてよかったです。味はすごくおいしくて、甘くて、好きな味だったので、家でもまた作りたいと思いました。商品開発に生かしたいです。
- ・はったい粉クッキーは、普通のクッキーみたいに意外と簡単に作れました。食べてみると、とてもおいしかったです。きな粉のような味がしました。粉砂糖をつけてもおいしかったけれど、つけてなくてもおいしく食べることができました。

ウ パン作り講義

(ア) 講師 にじとまめ。 田中 直子氏

(イ) 内容

ミニ食パン作りに使う水温や小麦粉の説明及び製作方法を学んだ（写真58）。また、小麦粉を使わず、米粉を用いたスノーボールクッキー作りについて実習講義を受けた（写真59）。米粉にはなく、小麦粉にはグルテンがあることや1次、2次発酵の仕方（写真60～63）を学んだ。



写真55 調理の様子



写真56 完成



写真57 ラッピング



写真58 講義



写真59 実習講義



写真60 クッキー焼き上がり



写真61 1次発酵後



写真62 2次発酵後



写真63 焼き上がり後

エ 商品開発

(7) 目的

はだか麦を使った商品の販売に向けて、商品を開発し、はだか麦を普及させる。

(イ) 内容

はだか麦について知るため、特徴をまとめ、市販されている商品の調査をした。その後、商品開発に向けてレシピの考案と調理を行った。

① はだか麦の特徴

はだか麦について各自で調べ、スライドにまとめ（図 11）、中間報告会で共有した。

はだか麦とは

はだか麦は大麦の一種に分類。
穀粒がむき出しになることから、この名前が付いている。

雨の少ない愛媛県や香川県の瀬戸内地域を中心に栽培が残っている状態

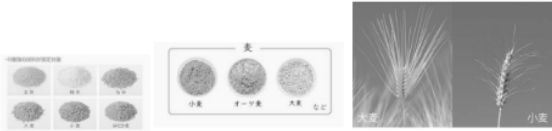
↓

種類

カワムギ・・・オオムギの変種
六条オオムギ・・・補に小花が6条ずつ並んでいる裸麦の栽培品種
二条オオムギ・・・穂に小花が2条ずつ並んでいる
(主にビールの原料になるのでビールムギとも呼ばれる)

大麦と小麦の違い

大麦と小麦の見た目の違いは穂のヒゲの長さ
また、両者の違いは、背丈や葉の幅よりも穂から出ているひげのような突起が現れており、突起が長く穂よりも上に出ているものが**大麦**
短くて不揃いなのが**小麦**ともいわれています。



はだか麦作り

麦は二毛作で作られるため、稲刈りの後からが麦の季節。10月から11月にかけて土づくり、12月までに種まき。発育状況を確認しながら。あとは土地の力に任せ、5月半ばに収穫。



はだか麦の栄養

○ はだか麦は玄米に比べ、糖質、カルシウムを多く含みます。
肝臓で作られている

○ 動脈硬化の原因と言われる血液中のLDLコレステロール値を低下させる働き
ガン予防効果がある

↓

お菓子

クッキー パン
ホットケーキ かりんとう

はったい粉について

大麦や裸麦を炒った後、石臼などで挽いて粉状にしたもの

栄養素

炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル、食物繊維などが豊富に含まれている

←

お菓子

クッキー もち
ドーナツ 蒸しパン

押し麦とは

○ 他の穀物に比べて水分を吸収しづらく煮えにくい雑穀

○ 加工して食べやすくしたもの

↓

お菓子

せんべい スコーン カaramelアイスクリーム
マフィン ワッフル

図 11 はだか麦のスライド

② 市販されている商品

販売されている市販商品を調べて、まとめた（図12）。

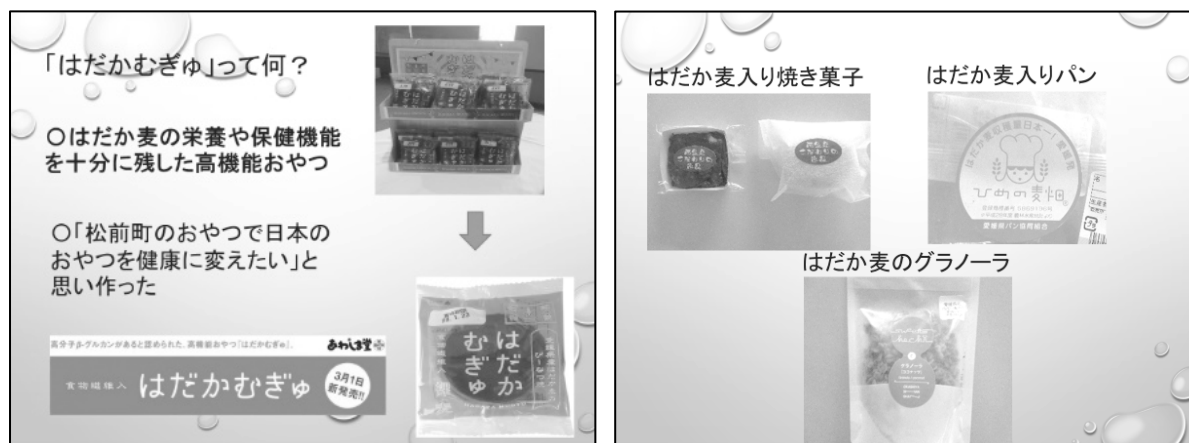


図12 市販商品

③ 商品開発

はだか麦を使った商品を考案し、レシピを作成した。試作をして、商品として売り出すための企画を立てた（図13）。

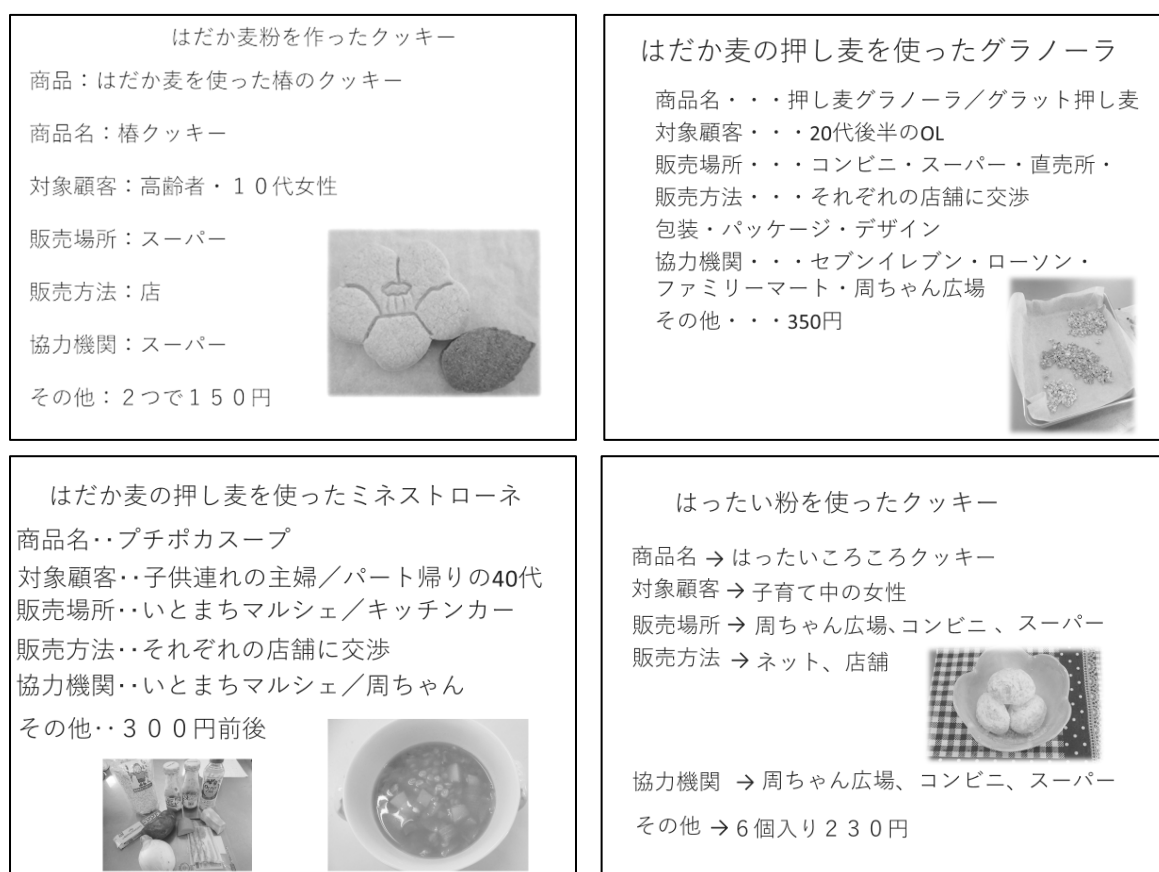


図13 商品開発に向けての企画

II-III 多世代交流の実施

1 研究の概要

活 動 日	活 動 内 容	科 目	場 所
7月27日	「椿千年の森」清掃	課題研究	椿千年の森
8月29日	消しゴム判子(ふらっと①)	課外活動(家庭クラブ)	小松中学校
9月～10月	椿の実収穫	課題研究	椿千年の森
11月6日	学校給食、魚食普及(ふらっと②)	課題研究	西条小学校
11月11日	学校給食、魚食普及(ふらっと③)	課題研究	小松小学校
11月16日	学校給食、魚食普及(ふらっと④)	課題研究	小松幼稚園
11月17日	椿の種の活用(幼稚園との交流)	課外活動(家庭クラブ)	小松幼稚園
11月～12月	シトラスリボンの制作と配布	課題研究	小松高校
12月	椿の種の活用(地域への配布)	課題研究	椿温泉など

2 研究の内容

(1) 「椿千年の森」清掃活動・椿の実収穫

ア 目的

「椿千年の森」の清掃活動や実の収穫を通して、椿への理解を深めるとともに、「小松つばき会」と協働することで地域の方々の役に立つ充実感を育むため。

イ 活動内容

(ア) 「椿千年の森」の整備①

7月に1・2年生で「椿千年の森」の整備を行った。今年度は、地域にも呼びかけを行い、「小松つばき会」の方々や小松総合支所の方々と一緒に散策路の草抜きやごみ拾いを行った(写真64)。1年生は「椿千年の森」は初めての訪問であった。地域の方と触れ合いながら活動を行うことができた。



写真64 椿千年の森の清掃

(イ) 「椿千年の森」の整備②(ネームタグの装着)

昨年度、「椿千年の森」を整備する中で、「椿の品種名が分かるとよい」という意見が出た。今年度は、7月の清掃時に各椿の木に数字を記入したタグを装着した(写真65)。

12月以降花が咲き始めた椿の撮影を行った。撮影した写真を椿の図鑑を活用して品種名の調査を行っている(写真66)。しかし、図鑑だけでは判別が難しい品種も多い。今後、画像と番号を一覧にまとめ、「小松つばき会」による確認の後、ネームタグを装着する予定である。また、同時進行で、パソコンを使用して椿の名称と特徴を示したネームタグをデザインした。ネームタグの見本を制作し、実際に椿の木に装着した。大きさや素材など、小松総合支所の方とも相談していきたい(写真67)。



写真65 数字タグの装着



写真 66 椿の花の記録



写真 67 ネームタグ

(ウ) 「椿千年の森」の整備③（椿の種の収穫）

9月に1年生の課題研究で「小松つばき会」の方々と椿の実を収穫した。収穫した椿の実には、例年「小松つばき会」で取り出した種から抽出した椿油を販売している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、「小松つばき会」が行っているイベントも中止になったため、使わなかった椿の実の提供を受けた。提供された実は天日干しにし、実が開いてきたら種を取り出した（写真68）。



写真 68 椿の種の収穫

(エ) 椿の種の活用

・幼稚園との交流で活用（写真69）

小松幼稚園を訪問した時に、福笑いのパーツとして、木の実を使用した。その時、椿の種や種殻も使用した。初めて見た園児も多かったようだが、園児それぞれの感性で様々な使い方をし、個性豊かな作品が完成した。

・地域への配布（写真70）

水引細工や消しゴム判子を使用した作品と一緒に地域に配布を行った。持ち帰った種を植え、育ててもらい、椿が広がればよいと考えている。



写真 69 幼稚園との交流



写真 70 地域への配布

(2) まちかど家庭科室～ふらっと～①

ア 期日 令和2年8月29日(土)

イ 場所 西条市立小松中学校

ウ 目的

小松の椿文化の普及のため、中学生や地域公民館の方々と一緒に消しゴム判子を作り、多世代交流を図る。また、高校生が講師となって講座を運営することで企画力を高めたい。

エ 実施内容(写真71)

(ア) 学校(ライフデザイン科)紹介

(イ) 作り方の説明

(ウ) 実習

(エ) 椿のオリジナルはがき(図14)

オ 参加者の感想

- ・説明が分かりやすく、たくさん褒めていただき、アドバイスもしていただいたので、上手に消しゴム判子が作れて楽しかったです。
- ・最初は、難しいかなと思っていたけど、やってみるとすごく簡単で、楽しかったです。椿の花と葉っぱの消しゴム判子がきれいにできたので、すごくうれしかったし、楽しかったです。
- ・優しく、分かりやすく教えてくださったので、とてもいい思い出になりました。椿を広めるために、自分でも作ってみようと思いました。

カ 成果と課題

司会や進行役を務めた生徒たちが分かりやすく説明し、優しく丁寧に接することができていた。生徒たちの自信にもつながったようである。講座の参加者の中には、かわいい椿の作品が出来上がり、椿の花と一緒にアピールしていきたいとおっしゃってくださる方もいた。今後は、生徒が主体となり、企画や運営をしていけるよう進めていきたい。

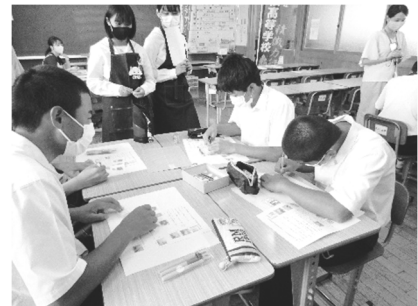


写真71 講義の様子

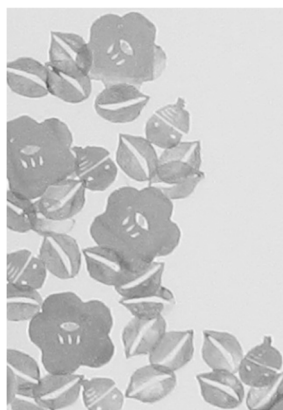
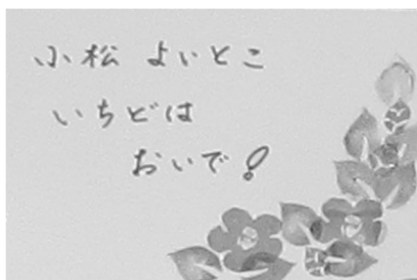


図14 完成した作品



(3) まちかど家庭科室～ふらっと～②

ア 期日 令和2年11月6日（金）

イ 場所 西条市立西条小学校

ウ 目的

学校給食を提供する際、県産の魚の知識を深めてもらい、身近に感じてもらえるように自分たちで説明を行い、学んだことを伝える力を育みたい。

エ 実施内容

(ア) 開発メニュー「鯛塩ラーメン」(写真 72)

鯛のあらで出し汁を取った塩ラーメン。魚のうまみを感じるスープに、鯛の身と県産の柑橘をトッピングして魚の臭みを感じさせず爽やかさを出す。



写真 72 鯛塩ラーメン

(イ) 小学校への訪問

給食で提供するに当たり、栄養教諭の先生がアレンジしてくださっていた。鯛のほぐし身をオーブンで加熱したり、伊予柑ピールをトッピングしたり、自分たちが考えたレシピを基に、給食で提供が可能なように、おいしく食べてもらえる様々な工夫をしてくださっていた。



写真 73 放送の様子

その後、校内放送を使用して全校に鯛塩ラーメンについての説明やクイズを行った(写真 73)。放送後、6年生の教室でインタビューを行った(写真 74)。放送を終え、教室に入るところには完食している児童もたくさんおり、「魚は苦手だけどこれはとってもおいしかった」と言ってもらえることができた。伊予柑ピールとの組み合わせも好きだという感想が多かった。



写真 74 インタビューの様子

オ 生徒の感想

学校給食の発表に行って実感したことは、自分たちの考えた案が採用されて、実際に給食になった献立を見ると給食献立を考えている栄養教諭の先生や、実際に作っている調理員さんの工夫を知り、大変さが分かったような気がしました。栄養や素材のおいしさを生かしたレシピの工夫が大切だと思いました。今回の活動で学んだことを、これからの活動つなげていきたいです。

カ 成果と課題

初めての発表で、表情や声のトーンなど気を付けたいことをお互いに声を掛けながら練習を行っていた。自分たちが発表するという責任感からか、様々な準備や確認も主体的に行うことができていた。また、栄養士の先生から、様々な工夫をされているお話を聞くことができ、考え、工夫することの大切さや勤労観を育むことにもつながったように感じた。教室でのインタビューでは、人前で話したり、質問したりすることの難しさを感じていた。実践の機会を増やし、人前で話す力を身に付けさせたい。

(4) まちかど家庭科室～ふらっと～③

ア 期日 令和2年11月11日(水)

イ 場所 西条市立小松小学校(西条市立小松学校給食センター)

ウ 目的

魚食普及のため、子どもたちに魚料理を美味しく食べてもらうため、鯛を使った学校給食メニューを開発した。料理が提供される日に小学校を訪問し、開発したメニューの紹介と魚食普及のアピールをする。



写真 75 魚食普及活動の様子

エ 実施内容

(ア) 鯛について(魚食普及活動) (写真 75)

西条市の魚食文化や「鯛」の漢字クイズ、栄養価について、写真やパネルを用いて説明した。

(イ) 開発メニュー「鯛のトマトソース」(写真 76)

(ウ) 給食

(エ) 感想インタビュー(写真 77)

小学生の感想

- ・鯛の料理について今まであまり知らなかったけど、高校生の話を聞いて初めて知りました。
- ・ソースにもしっかりと味があったけど、鯛の味が際立つ味だったのでとてもおいしかったです。
- ・見た目や色合いがよく、食べるのに食欲がわいてきました。
- ・魚がきらいのなので食べられるか不安でしたがとてもおいしかったです。
- ・今度は切り身じゃなくて丸ごと1匹食べたいです。それぐらいおいしかったです。
- ・クイズなどをしてくて、「鯛」の漢字を知ることができました。
- ・「鯛」のことをいっぱい教えてくれてありがとうございました。



写真 76 鯛のトマトソース



写真 77 インタビューの様子

オ 生徒の感想

- ・小学生が「おいしい」と言ってくれてうれしかった。
- ・「鯛」の話をよく聞いてくれていて、写真やパネルを作ったかいがあった。
- ・魚があまり好きじゃないと言っていた子が、おいしそうに食べきってくれたのを見て、調理方法を工夫することで魚を食べてくれるようになるのではないかと思った。
- ・次の給食メニュー開発に向けて意欲がわいてきた。
- ・緊張もしたけど、小学生と交流できて楽しかった。

カ 成果と課題

当日は、新聞社の取材もあり生徒たちは少し緊張している様子だったが、いざ教室に入ると、堂々と話をしていた。やはり校外に出て行って活動することは、生徒たちの成長につながる貴重な体験の場となることを実感した。自分たちの開発したメニューの提供により、生徒たちは充実感を味わうことができたと思う。この経験を生かし、魚食普及に向けて今後の活動に取り組んでいきたい。

(5) まちかど家庭科室～ふらっと～④

ア 期日 令和2年11月16日(月)

イ 場所 小松幼稚園(西条市立小松学校給食センター)

ウ 目的

魚食普及のため、子どもたちに魚料理を美味しく食べてもらいたいと、鯛を使った学校給食メニューを開発した。料理が提供される日に、開発したメニューの紹介と魚食普及のアピールをするため、幼稚園を訪問した。

エ 実施内容

(ア) エプロンシアター「にじいろのさかな」(写真78)

(イ) 鯛を食べよう！(写真79)

(ウ) 開発メニュー「鯛と里芋のコロッケ」紹介(写真80)

里芋とじゃがいものコロッケの中に、竜田揚げにした鯛が入っている。やわらかい里芋と味がしっかり付いた鯛がよく合う一品。

(エ) 給食(写真81)

(オ) 感想インタビュー

オ 生徒の感想

- ・エプロンシアターを初めて子どもたちの前で披露した。緊張したけど、うまくできたので良かったです。
- ・鯛と里芋のコロッケがとってもおいしくて、園児もおいしいと嬉しそうに食べていたので、達成感がありました。アイデアを出して良かったです。

カ 成果と課題

コロッケの中に入れる食材を何にするか、意見交換をよくしていた。竜田揚げにした鯛を入れるひと手間が、おいしさを際立てていた。調理していただいた給食センターの方々に感謝している。また、魚食普及のために、オリジナルの物語を作り、エプロンシアターとしてアピールすることができ、長い時間をかけて考えた成果があったと思う。今後は、エプロンシアター以外の児童文化財で子どもたちに魚食を普及していきたい。



写真78 エプロンシアター



写真79 紹介の様子



写真80「鯛の里芋コロッケ」



写真81 給食の様子

(6) シトラスリボンの制作と配布

ア 目的

医療従事者や感染者等に対する差別や偏見をなくするため、県内でシトラスリボンプロジェクトが広がっている。私たちも、シトラスリボンプロジェクトに参加することで、差別解消に向けて自分たちにできることを考え、行動に移したいと考えた。

イ 活動内容

(ア) シトラスリボンプロジェクトについての調べ学習

シトラスリボンプロジェクトについて調べてまとめた。愛媛県特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴ(図15)を身に付けて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動。シトラスリボンの三つの輪は、「地域」「家庭」「学校(職場)」を示していること。リボンを胸元や持ち物に付け、感染者や医療従事者への差別に反対する意思を示すこと。愛媛県から始まった活動であることなどを知った。初めて知った生徒も多かったが、全国的に差別事象が問題になっていたこともあり興味を持って調べていた。



図15 シトラスリボンプロジェクトロゴ

(イ) 国際ソロプチミストいしづちとの連携

国際ソロプチミストいしづちの方々から、様々なボランティア活動への参加についての案内を受けている。今回、シトラスリボンプロジェクトに参加するということで、リボンの作り方を教えていただいた(写真82)。シトラス色のヒモを使用してシトラスリボンを作成し、ストラップにした。完成したリボンとマスクを梱包した。



写真82 シトラスリボンの作成と梱包

(ウ) 校内への配布(写真83)

完成したシトラスリボンを国際ソロプチミストいしづちの方と正門前で配布することにした。事前に校内に周知するためにポスターを制作し(図16)、各クラスで活動の趣旨について説明を行った。当日は国際ソロプチミストいしづちの方と正門前でシトラスリボンを配布した。



写真83 シトラスリボンの配布

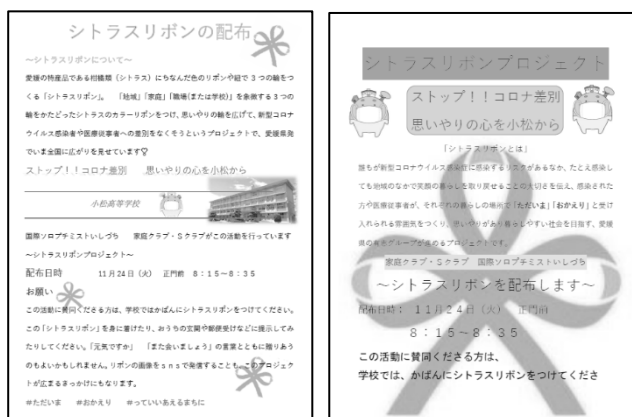


図16 シトラスリボンプロジェクトポスター

Ⅱ - IV 研究成果の発表・発信

1 椿に関する成果発表（写真 84）

(1) 日時 令和2年12月23日（水）

(2) 場所 愛媛県生涯学習センター

(3) 発表内容

ア 発表者 ライフデザイン科 2年2名

イ 発表結果 優秀賞

ウ 発表資料



写真 84 発表の様子

小松TSUBAKI プロジェクト

～伝統文化を継承し、地域と協働する～

小松高等学校 家庭クラブ

I 題目設定の理由

西条市小松町にある本校は、県内唯一の家庭科の専門学科と普通科の併設校で、今年度創立113年を迎えます。学校所在地である小松町は、小松藩主一柳直卿が苗木から育て、大切にしたと言われる椿が有名です。椿は、昭和60年旧小松町の町花となり、平成20年には「小松つばき会」により「椿千年の森」や「椿ハウス」が設けられ、町内には色とりどりの椿が咲き誇っています。このような小松町の風土や文化を継承し、椿の活用を通して地域貢献できる学校を目指したいという思いから、この題目を設定しました。

Ⅱ 実施内容

1 実態調査と問題点の把握

本校は、西条市だけでなく、近隣の市や県外からも生徒が通学しており、小松町や地域の特産品について知らない生徒が多くいます。本校敷地内には、多くの種類の椿が咲いていますが、椿に関するアンケート結果から、西条市に在住する生徒でさえも、椿のことを約半数しか知らないという現状が分かりました。

2 研究と実践

(1) 実践活動Ⅰ

ア 椿の歴史と文化

小松町に椿が広まったのはなぜか、その歴史について調査・研究しました。

イ 椿の観察

小松町に咲く椿を観察し、椿について調べ、ネームタグを取り付けました。

ウ 椿の活用方法

花だけでなく椿の種、椿殻を使った活用方法を研究し、講習会を実施しました。子どもたちが楽しめる児童文化財や簡単に作成できる小物などを考えました。

(2) 中間評価

地域と協働した実践活動が少ないことが課題となり、活動の幅を広げていくように進めました。

(3) 実践活動Ⅱ

ア 地域と協働した活動

椿の商品開発では、地域の飲食店の協力を得て、椿のかき氷や西条市産のはだか麦を使った椿のクッキーを販売しました。また、椿カレンダーの編集やエコバックデザインの依頼を受け、実施しました。

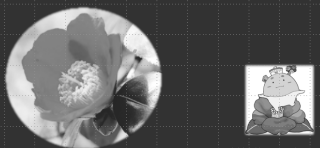
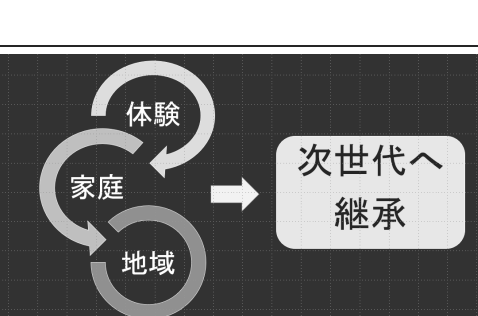
イ 普及活動

保育所や公民館、地域のイベントなどで椿の普及活動を行いました。

Ⅲ まとめと今後の課題

椿の研究を通して、「小松に椿あり！」と認識し、意欲的に活動をするクラブ員が多くなりました。椿の普及を進める中で、ホームプロジェクトに挑戦したり、椿のスマホケースやクラフト細工を作ったりするクラブ員も増えてきました。地域からも展示や販売の依頼をされるなど、クラブ員が活躍できる機会が多くなっています。今後は、西条市や各事業所と協働しながら、継続した活動を進めていきたいと考えています。

エ 発表スライド（一部抜粋）

1	小松TSUBAKIプロジェクト ～伝統文化を継承し、地域と協働する～  愛媛県立小松高等学校家庭クラブ	2	 篤山椿  女子教育発祥の地 儒学者 近藤 篤山
3	○小松町の椿の歴史や文化を知らない ○地域の特性を生かした活動が少ない ↓ 椿文化を継承し広めたい ↓ 地域と協働し地域貢献できる	4	椿千年の森ネームタグの作製 小松つばき会・西条市役所  ネームタグをデザイン
5	花  染色実験 きれいに染まるかな・・・ 綿 麻 羊毛 絹 レーヨン ポリエステル ナイロン アクリル ポリエステル ポリエステル	6	②イベントでの販売 小松文化祭(小松公民館) はだか麦入り椿のクッキー  小松高等学校
7	③出前講座 小松中学校  椿の消しゴムはんこ 中学生や地域の方を対象に	8	⑤椿小物の配布  子育て支援センター 手に取ってもらえるといいな 小松公民館
9	椿カレンダー  和菓子屋 駄菓子屋 小松公民館	10	(3)活躍できる機会の増加 地域への普及活動 ➡ 展示や販売の依頼 エコバックのデザイン シトラスリボンプロジェクト  YOSHIZANE CLEANING Yoshi Zane
11	 小松高校 市役所 公民館 商店 協働 小学校 中学校 幼稚園 保育所 椿文化の伝承	12	 体験 家庭 地域 次世代へ 継承

3 令和2年度「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム（オンライン）」による成果発信

(1) 日時 令和3年2月3日（水）

(2) 場所 本校 保育実習室

(3) 日程

13:30～ 開会式

13:35～ 取組概要説明

13:55～ ディスカッション1回目

14:10～ ディスカッション2回目

14:15～ ディスカッション3回目

14:55～ 閉会式

(4) 内容

ア 成果発表動画の作成と配信

事業内容の成果をまとめた約12分間の動画を作成し、「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム専用ホームページ（愛媛県教育委員会作成）」で公開した。

イ ディスカッション（オンライン）（写真85）

ウェブ会議システムで、代表3名が一般参加校とディスカッションを行った（表2）。その様子は、別教室の他の生徒も視聴し（写真86）、情報の共有をした。

表2 一般参加校一覧

ディスカッション1回目	ディスカッション2回目	ディスカッション3回目
新居浜工業高校	三島高校	川之江高校〔1〕
西条農業高校	新居浜工業高校	川之江高校〔2〕
丹原高校	西条農業高校	土居高校
今治北高校〔1〕	東予高校	新居浜商業高校
今治北高校〔2〕	今治北高校	今治北大三島分校
弓削高校	小松高校	今治工業高校



写真85 ディスカッションの様子

ウ 生徒の感想

- ・ディスカッションが難しかったけど、とてもいい経験になりました。各学校の意見もたくさん聞けたので、これからの活動に生かしていきたいです。
- ・他校の高校生とあまり話し合いをする機会がないので、新鮮で、楽しくできました。これからもこのような活動があれば、参加したいと思いました。今回のディスカッションを通じて、自分を成長させることができました。
- ・初めて参加して、どのタイミングで質問したらいいのか、他の学校の人はどのようなことを質問するのだろうと思っていましたが、うまくスムーズに進められて良かったです。もしまた機会があれば参加したいです。



写真86 別教室で視聴の様子

4 ホームページ掲載一覧

(1) 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

ア 掲載内容（令和2年3月～令和3年1月掲載分）

番号	実施日	内 容	カテゴリー
1	3月6日	第2回運営指導委員会	コンソーシアム・運営指導委員会
2	3月6日	成果発表	コンソーシアム・運営指導委員会
3	3月6日	第2回コンソーシアム検討会議	コンソーシアム・運営指導委員会
4	3月17日	来年度に向けてのワークショップ開催	成果発表
5	3月17日	取り組み内容を全教職員で共有	成果発表
6	4月13日	椿の花や枝で染色を行いました。	伝統文化継承と特産品開発
7	4月16日	2年生ライフデザイン科 今年度一回目の課題研究	伝統文化継承と特産品開発
8	5月28日	2年生ライフデザイン科課題研究	地域課題の発見・解決
9	6月4日	ホームプロジェクトから学ぶ	伝統文化継承と特産品開発
10	6月9日	1年生課題研究 小松町の歴史について	地域課題の発見・解決
11	6月11日	2年生課題研究エプロンシアター班	多世代交流と地域の活性化
12	7月13日	地域協働事業コンソーシアム・運営指導委員会	コンソーシアム・運営指導委員会
13	7月27日	椿千年の森の清掃と小松つばき会の方々との交流	地域課題の発見・解決
14	7月30日	2年生ライフデザイン科「学校給食」講義	伝統文化継承と特産品開発
15	8月20日	活動の振り返り（SDG sの視点を使って）	地域課題の発見・解決
16	8月24日	児童文化財の製作	伝統文化継承と特産品開発
17	8月29日	小松未来塾 第1回「まちかど家庭科室～ふらっと～」	多世代交流と地域の活性化
18	9月10日	学校給食レシピ発表会	伝統文化継承と特産品開発
19	9月15日	小松幼稚園での保育実習の様子	多世代交流と地域の活性化
20	9月17日	シーフード料理コンテストに挑戦！	地域課題の発見・解決
21	9月24日	職員室前の椿コーナーを更新しました。	地域課題の発見・解決
22	9月24日	「水引を学ぶー椿文化を広めるためにー」	伝統文化継承と特産品開発
23	9月28日	はだか麦についての講義	伝統文化継承と特産品開発
24	9月30日	椿の実の採集	地域課題の発見・解決
25	10月1日	商品開発に向けて②	伝統文化継承と特産品開発
26	10月1日	商品開発に向けての講義	伝統文化継承と特産品開発
27	10月5日	課題研究中間発表	伝統文化継承と特産品開発
28	10月8日	ファッション雑貨 zakka アワード2020 入賞	地域課題の発見・解決

29	10月13日	椿の水引作成	伝統文化継承と特産品開発
30	10月15日	読み聞かせ講習会	多世代交流と地域の活性化
31	10月19日	椿の実の選別	伝統文化継承と特産品開発
32	10月22日	クリーニングバックのデザイン	地域課題の発見・解決
33	11月6日	学校給食レシピ開発「鯛塩ラーメン」	伝統文化継承と特産品開発
34	11月9日	シトラスリボンプロジェクト①	多世代交流と地域の活性化
35	11月10日	数学の授業で地域協働ロゴマーク作成	地域課題の発見・解決
36	11月11日	学校給食レシピ開発「鯛のトマトソース」	伝統文化継承と特産品開発
37	11月13日	シトラスリボンプロジェクト②	多世代交流と地域の活性化
38	11月15日	商品開発に向けて ーはったい粉を使ったお菓子を学 ぶー	伝統文化継承と特産品開発
39	11月16日	学校給食レシピ開発「鯛の里いもコロッケ」	伝統文化継承と特産品開発
40	11月24日	シトラスリボンプロジェクト③	多世代交流と地域の活性化
41	12月7日	椿の花の観察	伝統文化継承と特産品開発
42	12月14日	クリーニングバッグのデザイン②	地域課題の発見・解決
43	12月17日	町内の掲示板に椿を	伝統文化継承と特産品開発
44	1月14日	1年ライフデザイン科「伝統産業視察」	先進地域・先進校視察
45	1月15日	3年ライフデザイン科「コサージュ講習会」	伝統文化継承と特産品開発
46	1月21日	「パッケージデザイン」についての講義	伝統文化継承と特産品開発
47	1月22日	丹原高校「課題研究」成果発表会に参加	先進地域・先進校視察
48	1月25日	パンづくり実習	伝統文化継承と特産品開発

愛媛県立小松高等学校 ー学校公式サイトー

メニュー

- ホーム
- 裏正が丘日記
- 学校紹介
- 各種通信
- 地域協働事業（文科省指
定）
- メディア掲載記事

検索ボックス

フリーワード



愛媛県立小松高等学校 ライフデザイン科

生活文化の伝承と多世代交流
共生のまちづくりに貢献する人材の育成

地域との協働による地域課題研究を通じた人材育成プログラム

文部科学省より研究指定を受けました。
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェッショナル型）」

令和元年度 研究成果報告書（PDF）

地域協働事業 掲載一覧

10件

3年ライフデザイン科 「コサージュ講習会」 01/15 伝統文化継承と特産品開発

町内の掲示板に椿を 2020/12/17 伝統文化継承と特産品開発

クリーニングバッグのデザイン ② 2020/12/14 地域課題の発見・解決

椿の花の観察 2020/12/07 伝統文化継承と特産品開発

シトラスリボンプロジェクト③ 2020/11/24 多世代交流と地域の活性化

学校給食レシピ開発「鯛の里いもコロッケ」 2020/11/16 伝統文化継承と特産品開発

商品開発に向けて ーはったい粉を使ったお菓子を学ぶー 2020/11/15 伝統文化継承と特産品開発

図 17 ホームページ画面



図 18 ホームページ掲載例

イ 課題、今後の取組等

本校のホームページは、令和元年9月12日から新しくなった。当初、旧ホームページで公開していたブログ「養正が丘日記」に他の行事と併せて掲載をしていたが、事業が軌道に乗ると、地域協働事業（文部科学省指定）というブログを作り、事業の取組を時系列で書き込むようにした。新ホームページでも、学校生活全般を紹介する「養正が丘日記」の他に地域協働事業に特化した「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を開設した。

今年度は、取組の分野を「コンソーシアム・運営指導委員会」「伝統文化継承と特産品開発」「地域課題の発見・解決」「多世代交流と地域の活性化」「先進地域・先進校視察」「成果発表」とし、取組内容を整理しながら掲載を継続した。昨年度の課題として、掲載の時系列が一致していなかったことを踏まえ、取り組んだ日と掲載した日が一致するようにした（図 17、18）。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、計画していた多くの事業が予定どおりの実施ができず、年度当初は掲載事項が少なく、全体的に掲載数を伸ばすことができなかった。来年度、計画通りの実施が見込めない場合は、取組内容だけでなく、それに伴う計画や準備についてのページも増やしていきたいと考えている。

(2) 学校での活動紹介「養正が丘日記」

ア 掲載内容（令和2年3月～令和3年1月掲載分）

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」では、この事業に関連する活動を掲載していたが、学校での活動全般に関するブログへも適宜、事業の掲載を行っている。

番号	実施日	内 容	カテゴリー
1	3月8日	地域協働事業のコンソーシアム検討会議の会場前の展示	活動の様子
2	3月9日	地域協働事業運営指導委員会会場の展示	活動の様子
3	3月26日	椿千年の森では、桜と椿が見頃です。	活動の様子
4	5月3日	はだか麦クッキー試作	活動の様子
5	7月1日	椿文化コーナー	2年生
6	7月6日	椿コーナー改装	2年生
7	7月14日	地域協働コンソーシアム・運営指導委員会での展示物	活動の様子
8	9月24日	椿カレンダー掲示	委員会活動
9	9月25日	椿の水引加工	2年生
10	10月3日	1年生課題研究 講義「西条市の麦について」	1年生
11	10月6日	2年ライフデザイン科「課題研究」講義「商品開発について」	2年生
12	10月15日	さかな料理講習会 ーあじの南蛮漬けー	1年生
13	12月4日	職員室前椿コーナーリニューアル	活動の様子
14	12月12日	椿千年の森観察	2年生
15	12月29日	家庭クラブ発表	委員会活動
16	1月12日	椿の普及活動	委員会活動
17	1月17日	コサージュ講習会	3年生
18	1月19日	パンづくり講習会	1年生
19	1月22日	「パッケージデザイン」講義	2年生
20	1月27日	丹原高校の「課題研究」成果発表会に参加	2年生

イ 課題、今後の取組等

「養正が丘日記」への掲載は、学校生活やその関連の出来事を毎日掲載するということをコンセプトとしており、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の取組内容も、学校での出来事として掲載した。こちらのページは、学校行事や部活動、話題性のある行事や日常の出来事などが一日ごとに更新される。「養正が丘日記」は、学校の様子を発信する重要なツールの一つであり、来年度も地域協働事業に関わる出来事を「養正が丘日記」に掲載を続けていきたいと考えている。

(3) 動画サイトの開設

ア YouTube への公式登録

愛媛県立小松高等学校ソーシャルメディア運用方針を整備して、公式登録を行った。動画という分かりやすいメディアで情報発信することによって、学校の状況を幅広い世代に知ってもらうために開

設手続きを行った。

現在、二つのチャンネル「愛媛県立小松高等学校」「小松高校地域協働事業」を運用している。文部科学省から研究指定を受けている「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」については、「小松高校地域協働事業」にアップロードしている。

イ 課題、今後の取組等

今年度は、まず、所定の手続きを経て開設をした。いくつかの取組に対して、試験的に動画をアップロードしたが、あまり整理されている状態ではない。(1)の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のブログ内に動画を埋め込む形で掲載を行った(図19)。

動画については、写真と異なり発言や行動を見ることができるので、どのような取組であるのか分かりやすい反面、不適切な表現や意図しない内容も表示される場合がある。その内容については、よく確認、精査し、見る側に不快感を与えないように注意する必要がある。

来年度については、動画を充実させ、活動内容が分かりやすいように特集ページを作るなど工夫した情報発信をしていきたい。



図19 ホームページ動画掲載例

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果と評価

(1) 研究の特徴

ア 学習内容の教育課程における位置付け、教科等横断的な学習とする取組

本事業は、ライフデザイン科対象のプロフェッショナル型事業で、今年度は1・2年生が実施学年となっている。また、対象教科は、普通教科「家庭」・専門教科「家庭」で、「課題研究」「生活産業基礎」が主な対象科目である。しかし、実際には、「課題研究」「生活産業基礎」に加え、「家庭総合」「フードデザイン」「発達と保育」や学校行事、特別活動である食物部の部活動、課外活動である家庭クラブの時間などを利用し、事業を実施した。また、教科等横断的な学習の取組については、数学や美術の授業において、デザインについて学び、商品開発のためのパッケージデザインやクリーニングバッグに活用することができた。

イ プロフェッショナル型の趣旨に応じた取組

専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の企業等との連携を図っている。本年度、商品開発としては、小学校の栄養教諭からの講義を基に、学校給食メニューを開発したり、多世代交流（まちかど家庭科室～ふらっと～②～④）としては、幼稚園や小学校に学校給食メニューの紹介と魚食普及のために訪問したりすることができた。また、椿の水引細工を作成して配布したり、生徒が講師となって消しゴム判子を作成する講習会（まちかど家庭科室～ふらっと～①）を開催したりするなど普及活動を行うことができた。

これらの探究活動は、「課題研究」や「生活産業基礎」の授業で、外部講師による講演や料理教室を実施して得た知識を基に、課外活動においてレシピづくりを通じて付加価値を加えることを目指し実施している。「課題研究」と「生活産業基礎」だけでは授業時間数が不足するため、計画的に「家庭総合」「フードデザイン」「発達と保育」の授業にも割り振っている。今後、どの活動をどの科目に割り振るのがより効果的かを、カリキュラム・マネジメントの視点から検討を進めたい。

(2) 成果の普及方法・実績について

ア 研究開発
【椿の消しゴム判子講習会】小松中学校において、中学生と地元公民館の方を対象に椿の消しゴム判子を作る講習会を開催し、椿の普及に努めた。
【「椿千年の森」の整備】【椿の実の採集】「小松つばき会」の指導で、「椿千年の森」の整備・ネームプレートの作成や、椿油製造のための椿の実の採集を行った。
【水引細工講習会】講師を招いて椿の水引細工の講習会を実施し、作成した水引細工にチャームやピンを付け、西条市小松総合支所や公民館、子育て交流センターなどで配布した。
【クリーニングバッグデザイン】地元事業所からクリーニングバッグのデザインを依頼され、小松町の椿も取り入れたデザインを作成した。
【児童文化財の活用】魚食普及のためのエプロンシアターを作製。オリジナルのストーリーを考え、フェルトで魚などを作成。小学校と幼稚園で実践した。
【学校給食メニュー開発訪問】開発した学校給食メニューが採用され、3か所の学校を訪問し、魚食普及のPRも兼ね、メニュー紹介をした。

イ 地域課題研究
・ 生活文化見学や地域課題学習、先進地視察を通して地域の課題を見つけ、その解決の手段について探究活動を行った。今後は、普通科にも学習を波及させる。
・ SNSの効果的な発信の方法を学び、今後課題解決のための情報発信を行う。

(3) 目標の進捗状況、成果

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		
ア 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
目標の内容	目標値	進捗状況
課題研究を通して課題解決能力が向上したと答える生徒の割合	70%	7月 54.7%、12月 68.15% 2月 78.0%
コンクールやコンテストの入選回数	周知	2回入賞
地域社会に役立ちたいと考える生徒の割合	70%	7月 52.7%、12月 52.1%、 2月 78.0%
イ 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
就職者のうち地元就職する生徒の割合	—	—
将来地元での就業を希望する生徒の割合	50%	1月 34.5%
②地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
「まちかど家庭科室～ふらっと～」に参加した生徒数	61人	61人 試作・準備・当日合わせて全員が参加
学校外での実践的な学習活動の回数	10回	14回
イ 普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
発表会の実施回数	4回	4回
ホームページやライフデザインだよりへの掲載	80回	62回 ホームページ、ライフデザインだより
③地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した地域人材を育成する地域としての活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
地域の機関と連携して実施した活動（講演、料理講習会等）回数	10回	12回
地域課題研究に協働する地域の外部人材の参画状況	5回	8回
テレビ、新聞等、マスコミを通じて活動のアピールを行った回数	2回	事業の新聞への掲載は、1回

設定した目標のなかで、「②地域人材を育成する高校としての活動指標」「③地域人材を育成する地域としての活動指標」の項目は、概ね目標を達成できているが、「①本構想において実現する成果目標」の数値は、成果が現れつつあるとは判断が難しい項目がある。

(4) 評価

本事業は、設定した数値目標を実現した上で、「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」「地域課題をふまえ、共生のまちづくりのパートナーとして高度な知識技能を身に付けようとする生徒の育成」「地域課題をふまえ、多様な立場の人や機関と進んで関係を構築する生徒の育成」を目指している。

事業評価の指標として、年間3回実施予定の43項目の生徒アンケート（資料1）を分析した。

資料1 生徒アンケートを実施する43項目（7月、12月、3月の年間3回実施予定）

探 究	1地域社会の魅力や課題について考える学習活動の頻度	安 心 安 全	23失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある
	2上記のような学習活動への熱心さ		24挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある
生 徒 の 成 長	18将来の国や地域の担い手として積極的に政策決定に参加したい	安 心 安 全	25目標や当事者意識を持って挑戦している人がある
	19地域をよりよくするため、私は地域における問題に関与したい		26尊敬している・憧れている人がある
	20自分の住んでいる地域をよくするために何をすべきか考えることがある		27誰かの挑戦に関わらせてもらえる機会がある
	21将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある		28自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる
	22私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない		29人と違うことが尊重される雰囲気がある
学 び の 土 壌	3地域の人と交流・議論・交渉する機会	学 び の 土 壌	30ありのままの自分が尊重される雰囲気がある
	4地元企業の人と交流・議論・交渉する機会		31様々な立場や役割を持つ人との関わりがある
	5学校の先生と交流・議論・交渉する機会		32様々な意見や価値観を持つ人との関わりがある
	6地域の仕事について知る機会		33立場や役割を超えて協働する機会がある
	7地域の文化について知る機会		34意見や価値観を超えて協働する機会がある
	8地域の魅力について知る機会		35本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
	9地域の課題について知る機会		36将来のことや実現したいことを話し合える人がある
	10信頼できる学校の先生がいる		37周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる
	11尊敬できる学校の先生がいる		38行動を振り返り、見直す(内省する)機会がある
	12本音で接してくれる学校の先生がいる		39お互いに問いかけあう機会がある
	13本気で接してくれる学校の先生がいる		40地域から大切にされている雰囲気を感じる
	14信頼できる地域の人がある		41地域の人や地域課題など、興味を持ったことに対して、すぐに橋渡しをしてくれる大人がいる
	15尊敬できる地域の人がある		42地域の人や課題などの現場に直接触れる機会がある
	16本音で接してくれる地域の人がある		43自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
	17本気で接してくれる地域の人がある		

※アンケートは4件法

課題探究的な活動に係る2項目 学びの土壌に係る36項目、生徒の成長に係る5項目

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「高校生と地域社会の関わりに係る実態調査」（2018）による）

資料2は、昨年度から研究に取り組んでいる2年生と今年度1年生の、「地域の魅力や課題について考える学習の頻度」を示したものである。

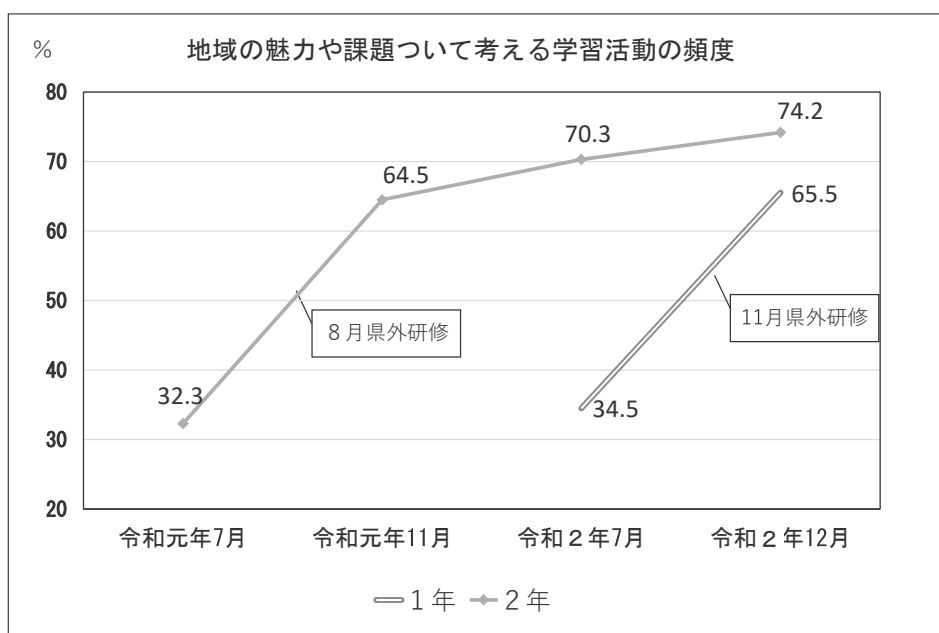
今年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年生は、地域への普及活動や県外研修が実施できなかったが、外部講師による講義・演習を基にした学校給食メニューの開発といった、校内でも行える取組を充実させたことで、生徒の意識も向上している。

1年生は、本格的に研究を始めた時期が6月からであったこともあり、7月時点では、学習活動の

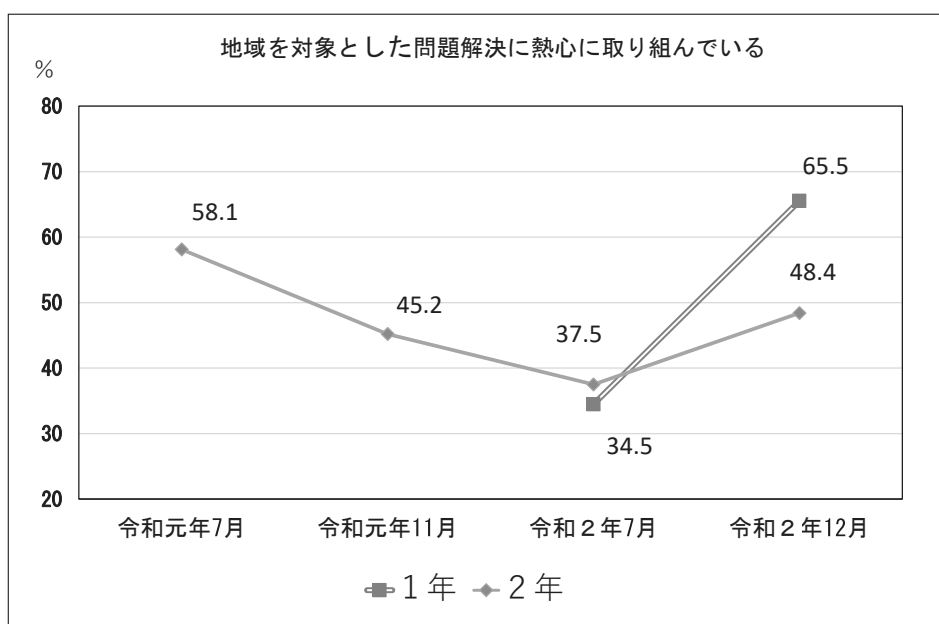
充実は感じられていなかったが、「椿千年の森」の清掃活動や外部講師による講義、香川県小豆島への県外研修を実施できたことから、伸び率が高くなっている。

資料3の「地域を対象とした問題解決に熱心に取り組んでいる」については、2年生は、昨年度よりも意識低下してきている。この原因としては、昨年度は実施できていた地域に出向いて行う普及活動や県内・県外への研修の機会が減ったことが考えられる。校内での研究活動は充実しているものの、その成果を発揮する機会が少なく、学校給食の訪問も少人数の生徒しか参加することができなかった。さらに、例年実施していた介護福祉施設や保育所訪問もできていない。これらのことから、地域との交流機会の重要性を、改めて確認することができた。3月には、今治市大三島と内子町への県内研修、島根県江津市への県外研修を予定している。このアンケートは、3月にも調査する予定であり、これらの交流機会を経験することで、数値が向上すると期待している。

資料2 「地域の魅力や課題について考える学習活動の頻度」



資料3 「地域を対象とした問題解決に熱心に取り組んでいる」



資料4の「他地域と比べた強み・伸びしろ」は、他地域との差が最も（プラスに）大きい項目とその差を表している。今年度は、校内での課題解決学習に十分時間が取れたことで、研究内容の企画や講義でのグループ活動やタブレットを利用した調査も充実していた。今後もこの強みを伸ばしていけるような活動に取り組んでいきたい。

資料4 「他地域と比べた強み・伸びしろ」（7月実施）

高い項目	%
学習活動（グループで協力しながら学習や調べものを行う）	78.7
学習環境（将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる）	83.6
生徒の自己認識（相手の意見を丁寧にきくことができる）	85.2
生徒の行動実績（友人などから意見やアドバイスを求められた）	70.5
低い項目	%
学習活動（学校外のいろいろな人に話を聞きに行く）	45.9
学習環境（地域に、尊敬している・憧れている大人がいる）	44.3
生徒の自己認識（私に関わることで、社会状況が変えられるかもしれない）	29.5
生徒の行動実績（地域社会などでボランティア活動に参加した）	44.3

（三菱UFJリサーチ&コンサルティング「高校魅力化アンケート 令和2年版」による）

2 次年度以降の課題及び改善点

- 本事業の目的は、地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究を進めることである。本年度は、地域の生活産業・生活文化を知り、地域課題を発見・解決するため、該当科目である「課題研究」「生活産業基礎」に加え、1・2年生履修の科目である「家庭総合」「フードデザイン」「発達と保育」などの授業の中で、計画的に外部講師の講義や県内・県外研修、地域のイベントや施設を訪問し、普及活動を進めていく計画であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、計画通りに事業を実施できなかった。今後もこのような状況が続くことを想定し、製作した作品などをプレゼントしたり、オンラインでの交流活動を進めたり、有効な方法を模索して、事業の目的が達成できるよう工夫しながら、計画的に事業を実施できるようカリキュラム・マネジメントを進めたい。
- 1年生は、椿・魚食・はだか麦など地域の生活産業・生活文化について基礎的な知識・技能を身に付けた。2年生は、昨年度身に付けた基礎的な知識・技能を基に、椿の小物制作による普及活動、学校給食メニューの開発や幼稚園や小学校との交流、商品開発に向けての取組などを行い、一定の成果を上げてきた。今後は、椿・魚食・はだか麦についての知識・技能を生かした商品開発とともに、県や全国レベルのコンテストへの挑戦、生徒が企画から関わる形での多世代交流の実施などを目指したい。
- 昨年度の課題であった他教科・科目と連携を図り、学校全体での研究開発体制を構築するため、全教員を対象としたワークショップを実施した。他教科・科目で、本事業と関連させた授業を実施する方策を協議した。「数学A」と「美術I」でロゴマークデザインに関連する内容を実施し、専門的知識や技術の向上につながった。今後は、より多くの教科・科目で実施できる体制を整えたい。また、マニフェストにも地域協働に関する項目を加え（資料5）、学校全体で取り組むよう構築することができた。
- 高度な知識・技能を身に付け、多様な立場の人や機関と関係を構築しつつ、地域に貢献したいと考える生徒を育成することが、本事業の目標の一つである。そのため、生徒の現状をアンケートで把握する

だけでなく、今まで実施した事業についての感想や事業を発展させるためには何をすべきか等、振り返りシートに書かれた内容の確認や、必要に応じて個別に聞き取りを行うなど、細かく情報収集することが必要である。その内容を反映させ、より生徒が意欲を持って取り組めるよう、事業内容を改善していきたい。

- (5) コンソーシアムとの連携の在り方についての研究も本事業の目的の一つである。研究開発の成果を広め、地域の活性化を図るためには、現在コンソーシアムを構成する諸機関や、地域の飲食店・企業家・スポーツチーム他の官民の新たな諸機関との連携を模索していくことが重要である。そのなかで、将来にわたって継続できる持続可能な事業内容を検討して重点的に実施していくことが重要と考える。
- (6) 研究成果の発信方法は、本年度もホームページが中心であったが、活動内容の動画を作成し、配信（愛媛県教育委員会ホームページ）することができた。今後も、マスコミの活用に加え、Instagram などの SNS の利用等も進めたい。

令和2年度小松高等学校 重点努力目標並びにマニフェスト

1 本年度重点努力目標

「学びをつなぐ 思考力、問題発見・解決能力の育成」

—伝統を継承し、地域と共に歩む—

2 本年度重点指導項目（マニフェスト）

(1) 豊かな心・温かい人間関係の育成 【篤敬】

- ア 挨拶の励行と適切な言葉遣い（「語の日」による啓発活動）
- イ 自ら積極的に取り組む清掃活動
- ウ 互いに認め、支え合う仲間づくり
- エ 積極的な多世代交流及びボランティア活動の推進（年5回以上）

(2) 確かな学力の定着・向上と進路実現 【勉学】

- ア 分かる授業で学力向上
- イ 家庭学習の充実（家庭学習時間2時間以上）
- ウ 個に応じたキャリア教育の充実
（各種検定の1級合格者延べ数50人以上）
（国公立・松山大の合格者（各々10人以上）含め、進学満足度100%）
（企業・事業所開拓等で、就職満足度100%）
- エ 地域課題を解決する多様な力の育成

(3) 社会性・たくましく生き抜く力の養成 【鍛錬】

- ア 部活動の充実
（県総合体育大会参加者100人以上、県総合文化祭等参加者20人以上）
- イ 5分前行動の励行と年間出席率の維持
（遅刻ゼロの日70日以上、出席率98%以上）
- ウ ルール厳守とマナー向上による交通事故ゼロ
- エ 生徒主体の生徒会活動・家庭クラブ活動や地域貢献活動の活性化及び地域との連携による協働性の育成

IV 運営指導委員会記録

1 第1回運営指導委員会（写真 87、88）

(1) 計画・実践と課題について

- ・様々な場面で生徒に育成したい力が身に付いてきていることが分かった。アンケート結果で「地域に役立ちたい」という項目が伸びている。生徒の主体性を意識し、今年度は企画段階から生徒に関わらせている点が良い。
- ・取り上げられた課題が、生徒が感じた課題なのか、教員が考えた課題なのかが分かりにくい。活動を通して生徒が感じた課題や意見を今後の取組に生かしていけるとよい。
- ・地域課題を知ることが、逆に、何ができるのか、何がやりたいのか、といった生徒のもやもやとした感情がマイナスに現れているのではないかな。
- ・先生方の中で目標が決まっており、その目標に向かってやらなければいけないことが生徒に伝わっているのではないかな。生徒が問題意識を持ち、やる気が出てきているので、できることとやれることを組み合わせながらうまく活動していくとよい。
- ・生徒たちの意見を聞き、真剣に議論していくことが大切である。いろいろな課題が出てくると思うが、「今すぐに解決しなくてもいいから、考え続けなさい」といった声掛けにより問題意識が芽生えてくる。
- ・ウィズコロナやアフターコロナの視点や、このような今だからできることといった視点で、生徒の自由な発想や課題意識を育んでいくことが大切である。



写真 87 会議の様子

(2) 評価方法について

- ・計画の中に持続可能な開発目標SDGsに関するものがあるため、活動する内容がSDGsのどれに該当するかを明確化し、評価に入れるとよい。

(3) 商品開発について

- ・「新しい生活様式」での商品開発では、マーケティングが最も重要になってくる。しっかりとマーケティングを行い、その地域の課題や困りごとを把握することが大切である。生徒が家族や地域の方から困りごとを聞くことで、新たな課題の発見につながる。今では、エコバックやマスクが当たり前になってきている。このような小さな変化から社会が変わっていくことを、生徒には伝えてほしい。
- ・「椿のジャム」や「消しゴム判子」のアイデアは生徒から出てきたということであるが、結果が大成功とならなくても、段取り力が育成されたり、生徒が開発したものが多くの方の目に止まったりすることで成果につながるとよいと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響をプラスに変えるアイデアが大切である。エコバックに椿のコンセプトを取り入れるのもよいと感じた。椿のマスクなど、新しいアイデアが生徒の活動から出てくるとよいと思う。

(4) 発信方法について

- ・小松高校のホームページは見る方の立場に立った記事になっており、写真選びもよい。単語で訴える内容もよい。生徒・保護者・地域が見たいと思うようなホームページを作成し、発信して欲しい。

- ・今後 Instagram の活用などが書かれているが、発信先の対象を明確に設定することが大切である。ターゲットをしっかりと設定し、何のために発信するのかを明確にさせるとよい。
- ・SNSを発信する際には、誰に、何を、どのように伝えるか、が大切である。ターゲットつまりペルソナ像を設定するとよい。
- ・若い世代は、テレビや新聞を見なくなってきている。このような現状の中、YouTube を活用するなど、若い世代に伝わりやすい発信を行うことで、生徒たちにも達成感が出てくるのではないかな。これからの社会に出る上では、このような経験も大切であると感じた。

(5) 今後の活動について

- ・将来、就職して現場に入ることになる。それに向けて、課題を発見し、対処する力、実践する力を身に付けておくことが大切である。これからは、知識や能力だけではなく、課題に取り組む力が、将来社会で役に立つ人間になるために必要ではないかと考える。
- ・地域の課題解決について昨年10月から取り組んできている。今後は、小松高校の生徒にも参加してもらい、地域課題について意見を出し合う場面で、小松高校の生徒に活躍してもらいたい。
- ・社員教育を行っていて感じることは、私たちの感覚が、今の時代とずれてきていることである。答えが出なくてもいいから自分で考えてやってみる、また、結論には至らなかったとしても、繰り返すことで実践力が身に付いてくる。こうすれば上手くいくといったノウハウはない。社会の矛盾も体験しながら、どんどん挑戦し、体験した中から生きる力を身に付けていってほしい。
- ・私たちが就職した時代では、コミュニケーション力やマネジメント力は、働き出してから勉強させてもらうという時代であった。今の時代は、高校の段階で身に付けた知識や能力は、就職した時や大学生活でも即戦力となる。就職した先で学ぶより前に、高校生活の中で、少しでも地域協働事業の取組の中で育んでいくことができればよい。



写真 88 成果作品展示

2 第2回運営指導委員会（写真 89）

(1) 今年度の実施状況について

- ・今年度、小松公民館文化祭、公民館フェスティバルが中止となった。来年度は、公民館フェスティバルの中止が決定しており、文化祭のみとなるが、その機会に高校からの展示や発表の機会が確保できるのではないかな。
- ・研究主題である「生活文化の伝承と多世代交流」について活動内容を見ると、継承や交流について、漏れがなく、無駄がなく進められている。家庭科の全ての科目に要素が位置付けられていると感じた。衣・食・保育を体系的に取り組んでおり、盛だくさんである。ロジックモデルを見ると、計画通りに成果が出て当然のように進んでいる。
- ・生徒は、今の時点で、将来、地域にどのような関わりを持ちたいと思っているのか。例えば、専門学校へ進学し、卒業後帰ってきて地元で就職するのかどうか。専門学科としては、生徒が地域を知り、その魅力を感じ、地域の課題を見つけ、将来、地域に貢献する意欲を持った生徒を育て、定着させることが大切である。計画的に全ての分野において、多くの地域の方を巻き込んで取り組んでいる手法を勉強させていただいた。今後も地元に残る生徒を多くしていけるように、来年度も期待している。
- ・マスコミに対しての発信方法の検討と研究をしてもらいたい。西条市のPRもマスコミを活用している。無料で周知してもらえるメリットを活用するとよい。いかにアピールするかがとても重要。「〇〇をします」の語尾でなく、インパクトのある言葉を使って、文言の言い回しを工夫するとよい。せっかく充実した事業をしているので、ぜひ多く発信をしてほしい。
- ・全国でも研究指定を受けたのは、家庭科の専門学科は2校しかないなので、PRの仕方を工夫してもらいたい。
- ・アンケート「学校外のいろいろな人に話を聞きに行く」について、愛媛県の生徒は、内向的な人が多く、シャイな人が多い。こういう場に慣れていないので、改善できればよいと思っている。また、「生徒の自己認識」について、29.5%と低いのが気になる。3年間を通して、自分がこれをやったことで、社会にインパクトを与えることができるという自信を持たせるためにどうしたらよいか、気になったところである。
- ・生徒に自信を持たせるためには、例えば、活動中の小松幼稚園、小松小学校、地域の方からのフィードバックを生かして、相手がどう反応しているかを感じ取れることが大事である。
- ・普通科の生徒を今後どのように巻き込んでいくかも大切である。感想や質問などの機会を作り、関わりがあるとよい。



写真 89 会議の様子

(2) 来年度の実施計画について

- ・研究開発の概要の中の学習指導方法の研究について、2年次に関して「課題解決を図る」、3年次では「地域に貢献する」となっているが、どういうふうに展開していくのか、具体的なビジョンを示すことができれば、生徒にも伝わり、広げられるのではないかな。
- ・商品開発について、試作したもの、できたものを成果発表会として実施するとよい。全国でも家庭科の専門学科2校しか指定されていないものなので、ぜひ成果発表会をしてほしい。マスコミにも発信もしていくことで、生徒に自信を持たせる事にもつながるのではないかな。

- ・学校給食メニューの開発について、今年度は鯛を使ってしていたが、鯛ではなく、違う魚に変えてメニュー開発をすることも可能であると思う。1回で終わりではなく、学校給食において、ずっと使ってもらえるようなものがよい。そうすることで、生徒の達成感が得られるのではないかな。自分が一生懸命考えたものがメニューに加わることで、自信につながると思う。生徒が考えたものを活用していけることが大事である。
 - ・SDG s の捉え方について、3年間でどういうふうに変化が出るか興味がある。3年間の学習を通して、自分が 17 の目標の項目を持続するために何ができるか、学習の成果として確認させることで、生徒自身の成長にもなるのではないかな。どれが達成できるか知ること、地域愛を深めることができる。
 - ・研究成果発表会（写真 90）を聞いて、ファシリテーション能力や校外活動の中でコミュニケーション能力を向上させることが大切であると感じた。最近の就職試験でもグループ討議が多くなってきている。この能力は社会人になっても活用ができると思う。今回の事業で能力開発をどんどん進めていったらよいと思う。
 - ・校外研修では、自分の目で見て、耳で聞いて、学習することが有効ではあるが、今後は、リモートでの活動を充実させてみてはどうか。リモートは、これから、日常的にコミュニケーションツールとなる可能性がある。今後は、学校間との交流活動をしてみてはどうか。
 - ・今年度は、多くの制約がある中で、精力的に活動している生徒の力に感動した。来年度もコンソーシアム、地域と関連して、生徒が活躍していけることを期待している。
- (3) 事業終了後の取組について
- ・来年度の事業終了後の取組について、続けやすいのは、学校給食と椿文化の普及で、今後も継続してできるのではないかな。
 - ・SDG s について、日頃からこの活動が何に関連するかを生徒に意識させる指導を続けてほしい。



写真 90 研究成果発表会の様子

V 関係資料

1 令和2年度教育課程表

令和2年度 教育課程表

平成31・令和2年度入学（家庭科）

愛媛県立小松高等学校（全日制・本校）

学科 コース			ラ イ フ デ ザ イ ン								ヒ ュ ー マ ン サ ー ビ ス			
区分	ラ イ フ デ ザ イ ン		ヒ ュ ー マ ン サ ー ビ ス											
教科	科 目	標準単位数	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計				
国語	国語総合	4	5			5	11	5			5	11		
	国語表現	3			2	2				2	2			
	現代文	B 4		2	2	4			2	2	4			
地理歴史	世界史	A 2	2			2	6	2			2	6		
	日本史	A 2			2	2				2	2			
	地理	A 2		2		2			2		2			
公民	現代社会	2		2		2	4		2		2	4		
	政治・経済	2			2	2				2	2			
数学	数学Ⅰ	3	3			3	7	3			3	7		
	数学Ⅱ	A 2		2		2			2		2			
	数学研究	B 2			2	2				2	2			
理科	科学と人間生活	2	2			2	6	2			2	6		
	化学基礎	2			2	2				2	2			
	生物基礎	2		2		2			2		2			
保健体育	体育	7～8	3	2	2	7	9	3	2	2	7	9		
	保健	2	1	1		2		1	1		2			
芸術	音楽Ⅰ	2				0・2	3・5				0・2	3・5		
	音楽Ⅱ	2				0・1					0・1			
	美術Ⅰ	2	2			0・2		2			0・2			
	美術Ⅱ	2		1		0・1			1		0・1			
	書道Ⅰ	2				0・2					0・2			
	書道Ⅱ	2				0・1					0・1			
	音楽探究	2			※2	0・2				※2	0・2			
	美術探究	2			※2	0・2				※2	0・2			
外国語	コミュニケーションⅠ	3	3			3	7・9	3			3	7・9		
	コミュニケーションⅡ	4		2	2	4			2	2	4			
	英語表現Ⅰ	2			※2	0・2				※2	0・2			
家庭	家庭総合	4	3			3	3	3			3	3		
共通教科・科目計			24	16	16・18	56・58	24	16	16・18	56・58				
商業	ビジネス基礎	2～4			※2	0・2	2・4			※2	0・2	2・4		
	情報処理	2～6			2	2				2	2			
家庭	生活産業基礎	2	2			2	33	2			2	29		
	課題研究	2～4	1	2	2	5		1	2	2	5			
	生活産業情報	2～4		2		2			2		2			
	子どもの発達と保育	2～6		3		3			3		3			
	子ども文化	2～4								2	2			
	生活と福祉	2～4		2		2			4		4			
	ファッション造形基礎	2～6	2	2	3	7		2	2		4			
	ファッション造形	2～10			△3	0・3				△3	0・3			
	ファッションデザイン	2～14			△3	0・3				△3	0・3			
	フードデザイン	2～6	2	2	3	7		2	2		4			
福祉	調理	2～14			△3	0・3				△3	0・3	4		
	ライフデザイン	2		2		2								
福祉	介護福祉基礎	2～8								2	2	4		
	こころとからだの理解	2～10								2	2			
専門教科・科目計			7	15	13・15	35・37	7	15	13・15	35・37				
小計			31	31	31	93	31	31	31	93				
総合的な探究の時間			3～6											
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	3	1	1	1	3	3		
計			32	32	32	96	32	32	32	96				
コース説明			衣食住・家庭などの生活課題について専門学習				高齢者福祉・乳幼児保育について専門学習							
履修学級数			1											
備考			(1・2年) ・芸術は、音楽Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ、書道Ⅰ・Ⅱから1組を選択履修する。 (3年) ・△印及び※印からそれぞれ1科目を選択履修する。 (注1) 共通教科「情報」は「生活産業情報」で代替する。 (注2) 「総合的な学習の時間」は「課題研究」で代替する。											

2 令和元年度実施報告概要

(1) 令和元年度研究開発の実績

ア 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「課題研究」「生活産業基礎」他における地域での探究学習				1回			2回	1回			1回	
外部講師による講義・演習			1回	2回	2回	1回	2回		1回	1回	4回	
校外研修			1回		3回	1回			1回			
交流活動				2回	1回	1回		2回				
地域との協働によるコンソーシアムの構築			1回	6回	6回	2回	2回	1回	2回	1回	2回	

イ 目標の進捗状況、成果

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		
ア 卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
目標の内容	目標値	進捗状況
課題研究を通して課題解決能力が向上したと答える生徒の割合	70%	1月 75.9%
コンクールやコンテストの入選回数	周知	市レベルで3回入賞
地域社会に役立ちたいと考える生徒の割合	70%	7月 67.7%、11月 54.8%、1月 72.4%
イ 高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標		
就職者のうち地元就職する生徒の割合	—	—
将来地元での就業を希望する生徒の割合	50%	1月 34.5%
②地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
「まちかど家庭科室～ふらっと～」に参加した生徒数	34人	クラス全員が参加
学校外での実践的な学習活動の回数	7回	17回
イ 普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標		
発表会の実施回数	4回	5回
ホームページやライフデザインだよりへの掲載	80回	69回
③地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）		
ア 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した地域人材を育成する地域としての活動指標		
目標の内容	目標値	進捗状況
地域の機関と連携して実施した活動（講演、料理講習会等）回数	5回	12回
地域課題研究に協働する地域の外部人材の参画状況	5回	11回
テレビ、新聞等、マスコミを通じて活動のアピールを行った回数	2回	新聞への掲載2回
設定した目標のなかで、「②地域人材を育成する高校としての活動指標」「③地域人材を育成する地域としての活動指標」の項目は、概ね目標を達成できているが、「①本構想において実現する成果目標」の数値は、成果が現れつつあるとは判断できない項目がある。		

ウ 評価

本事業の最終アウトカムに「地域の産業に従事し、生涯にわたって地域に貢献したいと考える生徒の育成」があり、この項目に肯定的な生徒は、7月 67.7%、11月 54.8%、1月の臨時調査で 72.4%と数値に大きなばらつきがあり、目標とする生徒育成が十分に進んでいるかは判断が難しい。

本事業で育成を目指す「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある」生徒の比率は、「自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる」、「ありのままの自分が尊重される雰囲気がある」などの、自分の学びへの周囲のサポート環境の豊かさを感じている生徒ほど数値が高いことが分かった。

また、7月と11月の結果の比較から、地域社会の魅力や課題について考える探究的な学習活動の頻度は倍増しており、とりわけ「地元企業の人と交流・議論・交渉する機会」は、大きく学習機会が増えている。このように活動の頻度が増してなお、およそ9割の生徒が課題探究的な活動に「熱心に取り組む」と回答しており、生徒のニーズや満足度が高いことが分かる。加えて、11月に「人と違うことが尊重される雰囲気がある」「誰かの挑戦に関わらせてもらえる機会がある」「立場や役割を超えて協働する機会がある」の肯定率が下がっていることから、安心安全・多様性といった周囲のサポート環境の豊かさを示す項目が、生徒の育成に影響を与えていることを意識した取組が必要である。

(2) 次年度以降の課題及び改善点

ア 地域課題研究を各科目に位置付け、体系的・系統的に学習するカリキュラムの研究

地域人材の開拓・活用を進めるなかで、該当科目である「課題研究」「生活産業基礎」に加え、家庭科専門科目、学校行事、課外活動の時間も利用して事業を実施してきた。今後は、研究開発・地域人材開拓と同時に事業内容の精選も行った上で、計画的に事業を実施できるようカリキュラム・マネジメントを進めたい。

研究推進委員会を中心とした学校全体での研究開発体制を充実させ、家庭科以外の教員の協力、家庭科以外の教科・科目の時間の利用を進めたい。

イ 学習指導方法の研究

今年度は、①椿・魚食・はだか麦など地域の生活産業・生活文化についての基礎的知識や技能の習得、②西条市内で行われた食に関する三つのコンテストへ参加・優勝、③西条市小松地域における多世代交流などの成果が得られた。今後、①新しいレシピや製品の開発、②県や全国レベルのコンテストへの挑戦・入賞、③生徒が企画から関わる形での多世代交流の実施を目指したい。

ウ 地域課題研究の評価方法の研究

「高度な知識技能を身に付け、多様な立場の人や機関と関係を構築しつつ、地域に貢献したいと考える生徒」を育成できているかを把握するため、アンケート結果に加え、振り返りワークシート、個別の聞き取りの分析が必要と考える。その結果を反映させ、より生徒が意欲を持てるよう、事業内容を改善したい。

エ コンソーシアムとの連携の在り方についての研究

研究開発の成果を広め地域を活性化するために、現在コンソーシアムを構成する機関に加え、地域の新たな機関との連携も模索している。そのなかで、将来にわたって継続できる事業内容を検討し、重点的に実施したい。

オ その他

研究成果の発信方法は、ホームページが中心であったが、来年度は、マスコミの積極的活用に加え、InstagramなどのSNSの利用等も進めたい。

発行日 令和3年3月

発行者 愛媛県立小松高等学校

〒799-1101

愛媛県西条市小松町新屋敷乙 42 番地 1

TEL (0898) 72-2731

FAX (0898) 72-3669

編集者 愛媛県立小松高等学校



小松高校イメージキャラクター
ようせいくん-つばき ver.-